

6529

15-4-1



緑丘

全国版

(通巻)No. 34号
(38年度 4号)

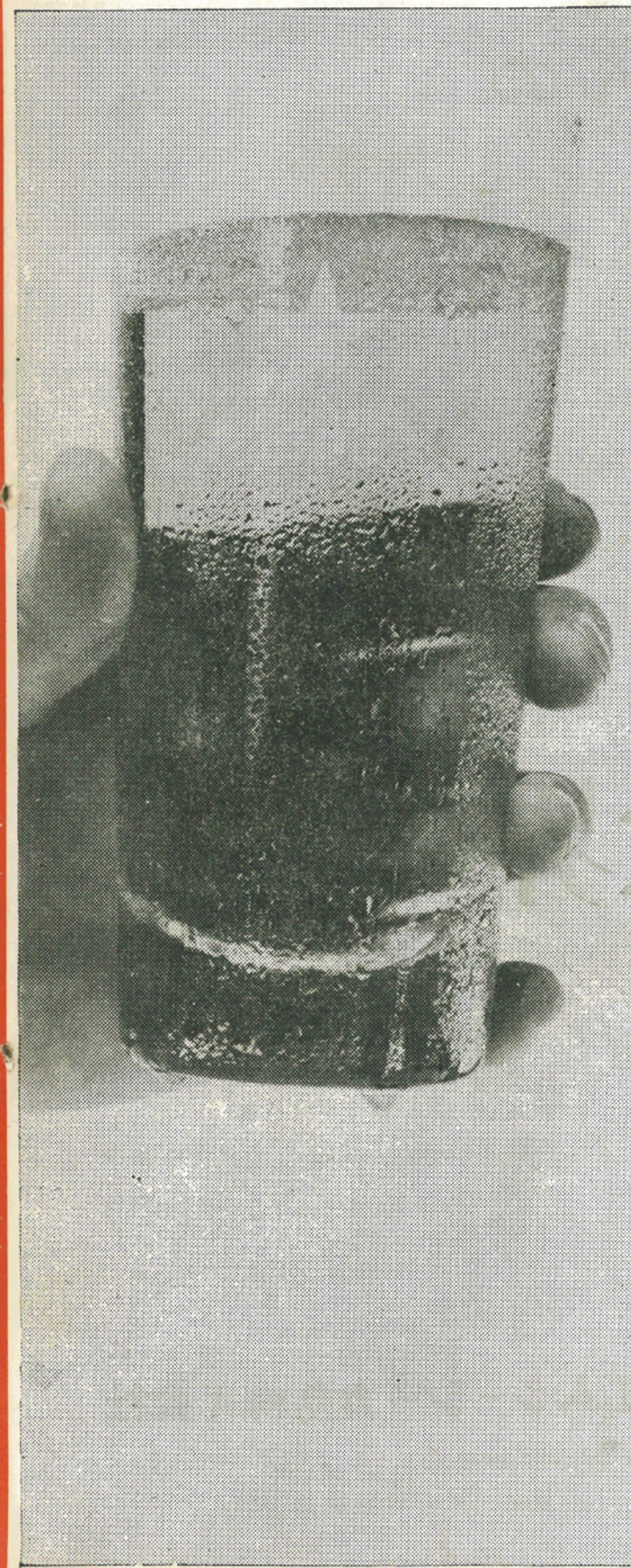
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
日本麦酒(株)内
緑丘大阪支部

編集部
大阪市東区道修町三の一
塩野義製薬株式会社内
兼 目 英 三

かわら版 大坂安部之合戦之図

瓦版とはそのむかし、事件の速報に用いられた印刷物で、その名称も版材に瓦片などを使ったことに由来する。「大坂安部之合戦之図」は元和元年(一六一五)五月大阪夏の陣の際に印刷されたものといわれ、同種の「大坂卯年図」とともに、わが国最古の瓦版といわれたりした。僅か二、三枚程しか現存せず極めて珍稀なものである。

原品は徳川末期、蜀山人(太田南畝)によって紹介されて以来、大いに珍重がられ、ために幾種かの模本が作られた。この模本も何時頃その版が彫られたか明らかではないが、なかなかよく出来ている。



うまさもでっかい 生ビール!

ミュンヘンにも、ミルウォーキーにも、こんな「でっかうまさ」はありません。ご存じ北海道名物《生ビールびん詰め》です。“瞬間殺菌法”により、今までのナマより保存がききます。普通ビールの三本以上みんなで飲んで三五〇円

**サッポロ★
ジャイアンツ**

読者の声

旧校舎を残そう

—学生会館の

着工に寄せて—

越崎 清二

(昭二一)

盆を過ぎて初秋の気配を感じ始めた去る八月二十五日、日曜の早朝ブラリと自宅を出て、朝の散策を試みた。別段何処という目的もなかったが、澄み切った空を眺めて緑町第二大通を足は母校々舎の方面へ向った。正法寺をすぎ、旧第四寮前にさしかゝって始めて何時の間にか、あの黒ずんだ古い建物が取り壊されて空地となつて居ることに気がつき、かつ驚いた。周囲にバラ線が張りめぐらされ、雑草のなかに「小樽商大公務員宿舎宅建築用地」と記された立札が目をはきつけた。

高尚湯の角を曲って旧高商クラブの前を通り地獄坂にさしかゝる。坂の別れ目に立つアカシヤの樹は、その昔さながらである。母校正門に至る地獄坂の両側は空き地のない家続きとなつてしまつたことは五十年のさい思ひを新たにしたことであつた。深緑のアカシヤ並木の樹間から透き徹る初秋の空にかいま見る新講

堂の建物のうすみどりの瀟洒たる格調は緑ヶ丘一帯の環境のなかで、完璧といつてよい調和を保っていることに、いまさらながら一驚を喫する。年代を経て此処を訪れるほど、その感は深まるのではなからうか。全く心に沁み通るばかりの快調である。ウソだと思ふ御仁は試みに一度尋ねて見給え、この母校木造校舎は札幌伊藤組の請負になるものと伝え聞くが、半世紀を遡る先人の建築のセンスのよさに、いまさらながら頭の下る思いである。

守衛室を通り、朝の森閑とした母校構内に入る。入口の掲示板には「学生会館工事中怪我なきよう」との学長の注意事項が掲げられてあつた。左手の旧第一寮もすでに完全に取り払はれて跡形もなく、つい先頃松村組の着工にかゝつた学生会館の工事現場と化して居た。時計を見るに六時前後であつたが、若い技師二人が作業服姿で、前日に打ち込んだ基礎コンクリの下検分を行つて居た。同期の松村組取締役東京支店長中尾弘君が起工式に東京から態々来校、明春完成の折には再度来訪とのことを伝え聞いて嬉しく思つた。

学生々活三ヶ年の間、起居した母校の旧寮舎を解体して、その跡に近代的学生会館を建設する業にたづさわる廻り合はせは、また格別の心境である。こんなことを考えながら丘の地下深く打ち込まれた今様建築法のコンクリの長い棒柱の頭を眺めながら本校舎正面の校庭に出る。五十年記念パーティーの行はれた昭和三十六年の夏以来九二年振りであ

る。

真つ先に目に入ったのは図書館閲覧室の海側空地を、このほど出来上つたスマートな電気計算室の別棟である。クリーム色の四角な平屋建が旧来のうぐひす色の校舎と、ほどよい調和を保つ、構内の一隅に建つた小屋にすぎないが、これが、これからの北海道開発の一翼を荷う学園発展の中枢、心臓部であるわけだ。透過のガラス窓からのぞく内部には母校基金の半ばを投じた沖電機の巨大な計算頭脳が聊か無気味にヒツソリとおさめられてあつた。

港に昇つた朝の太陽の暖か味を背に受けながら本校舎を真正面に眺めて見た。うすすら茶を含みかけたかと思はれる深緑の裏山を背景に、天狗山麓の緑ヶ丘一帯の環境のなかで長年見馴れた校舎にすぎないが、薄緑の木造建築の肌合いが何ともいふような不完全な調和、高い格調を保つて余す処がない。近よつて見れば創立以来半世紀に亘つて塗り替えに塗り替えを重ねた田舎芸者のおしるいどころではない、あはた校舎にすぎない地肌であつても丘全体の緑の環境のなかでシットリ融け合つたうすみどりは手の下しようなない美事な完璧さだ。

この母校本校舎も、やがては鉄筋の近代建築物に変わることであろうがせめて丘の伝統の象徴たる本校舎木造建築の玄関位は保存出来ぬものであろうか。もちろん校舎の両翼は、もぎ取つてしまつてもガラス張りの新建築様式のなかにあつてマークユリーを屋上に頂く、あの正面玄関の



最高の品質と
最高の技術を誇る

KYCの製品

- ポータブルコンベヤー 各種
- クライマーコンベヤー 各種
- スラッターコンベヤー 各種
- ローラーコンベヤー 各種
- コンクリートミキサー 各種
- バッチャープラント 各種
- 自吸式ポンプ 各種
- バーチカルポンプ 各種
- モータープーリー 各種
- ウインチ 各種

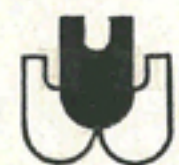
KYC 総合建設機械のトップメーカー

光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美 (昭17年)

本社	大阪市北区南同心町一丁目二番地	電話大阪(351)3091~5(代表)
大阪支店	大阪市北区南同心町一丁目二番地	電話大阪(351)3091~5・8291~5
東京支店	東京都千代田区神田小川町二丁目三番地 (新小川町ビル)	電話東京(291)1216・1309 3381~5
九州営業所	福岡市中浜口町一九番地	電話福岡(3)1841・2414
名古屋出張所	名古屋市東区壱代官町一四番地	電話名古屋(94)1315
仙台出張所	仙台市北材木町三九番地	電話仙台(22)5247
札幌出張所	札幌市南十一条西八丁目五四一の二番地	電話札幌(5)9868
高松出張所	高松市塩上町一一八一番地	電話高松(3)4392
広島出張所	広島市松川町四の一番地	電話広島(61)7620
工場	寝屋川・守口・吹田・東京所沢	

広告マツクと美術印刷・紙工品



株式会社 三優社

京都市下京区寺町通松原下ル
TEL. (35)0271・4950・7713
取締役社長 山村太兵衛 (昭12)

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

エレガントな風貌は緑丘半世紀の歴史を秘めて十分な調和を保ち得るものと思う。学内にも、その声のあるやに伝へ聞いているが、学校当局、緑丘会、建築業関係者共々、その実現をいまの内に期せられんことを祈つてやまない。

帰途正門を下って約一〇〇米の左手に居を構える同期の田中三郎君(小樽石炭運輸)を訪うと全国水泳大会へ道代表として浜松へ旅行不在中とのことであった。

緑丘誌代増収案

戸谷 太通 三 (昭一三)

最近昭十三年会では「緑丘」を同期の横の連絡誌としたいゆえ同期各位は購読されたし、との十三年会誌「緑丘」購読運動ともいふべき檄文が發送されており、同誌のため慶賀の至りです。

緑丘誌は余りに紳士的なのか、同誌のどこにも購読料金が記載されておりません。同誌見本を送られても会員のなかには「緑丘」は日本ビールと塩野義のPR兼用の無料寄贈誌と早合点する向きも多いと存じますので

一、同誌のどこかに「一年間の購読料」「一年六回」―但し特集合併号の場合は五回―のこと、「振替貯金番号と送金先」を記載し、併せて

二、母校の会報のように「振替用紙」を必ず同封したらよいと愚考します。

Madrid から

森下 弘 (大一一四)



御元気の事と思えます。四年振りの欧州行で、北歐、独乙方面の仕事が終りましたので、昨日Osloから当地へ参りました。Osloは晩秋で全く北海道を思わせる情景でしたが、当地では、全く真夏の暑さでした。Madrid から約七〇軒離れた古都 Toledo へ行つて参りましたが小さい町にかゝらず、幾多の文化が重なった所だけに古い寺院が多く、ことにGrecosの作品が沢山各所に陳列されておりました。伊太利、中近東を経て十月中旬帰国します。

遙かに御健勝を祈ります。
一九六三―一九二八
Madrid じい

香港へ再び

木下 春雄 (昭一一)



八月二十三日ルフトハンザ機で羽田から三時間二十分、なつかしの香港へ再びやつて参りました。トーストの値段がダブって請求書についているので文句をいうと一皿の上二つに切った一方の値段だと弁解します。ドイツ航空のラオさんに

さそわれて九竜ドライブ。とある古いお寺でおみくじを引く。日本式でなく、これがとても、また面白い。女運はときくと、猿が来て、兎が走るとある。早いとこやらぬと逃げてしまふ意らしい。御元気で。
一九六三―一九一一

恩師 若松清太郎

先生を訪問

藤井 幸男 (昭九)

先日鳥取に出張の際、恩師若松清太郎先生を訪ねました。
「あ、なんだい、藤井かいや、よう来たなあ、まあ上れいや、ほおー」
「大阪だつてなあ、どうしとるだいや」
「まあ、お前は先生ちゆうたなあ向かんわいや、まあげんきでええ」
「ようふとったなあ、酒のんどのかいや、でもなあ、あんまり飲むなえ」
「わしも八十になるで、まあ元氣だけどなあ、近頃はなあ、頭のほうはどうもいけんわいや」
「足や腰はええけど、年だわいや」
「近頃ようぼけるようになつたわい」
「こないだ昭和八年の連中が熱海に招待してくれたけどなあ―どうも、この年ではめいわくかけると思つてなあ―ゆきたかつたが、やめたわい」
「ふうん原岡さんがなあ! あれやもう八十四か五だで、ふうんそうかい、うん死んだ子供はわしもよう知つとる。ふうん原岡さんが出られた

か……(あとは涙)
「苦さんが説教したつて、あれや元氣なもんでなあ―品川さんもか、大谷君か、久木もえ、井上紫電、木村さんおつたおつた。あれは行かなかつたか、あいついばつておるだらうなあ、ぬけぬけの奴だつた……」
「お前らは来年かあ、一寮の連中はよう憶えておる、わしを困らせたまんだ、みんなどうしとるい」
「会いたいもんだなあ、だけど東京まで、とてもようゆかんわいや」
「鳥取県の安定所を募集に歩いとるんか」
「それならなあ、まず自分も鳥取出身者だということ、よういつて、きたもんに安心させんといけんで」
「あんまりえらそうな格好せずに、わしも鳥取もんだということをよういつて親切にしてやらんといけんぞ」
「酒でもやりたいか、うちにないでなあ―まあこらえいや」
「また来たときに寄つてくれいや」
八十才の老先生との愉快な楽しい一刻をすこし後髪を引かれる思いで辞した次第です。

VANCOUVER から

兼子 清一郎 (昭一一)

先日はわざわざ東京で会合を催され有難うございました。今日は生憎の雨でしたが、約一時間おくれて羽田を発ち唯今は大平洋上高度三万二千フットで飛んでいます。気流が悪く大部上り下りがありますが月夜で月がよく見えます。皆様によろしく。
一九六三―一〇一一

日軽不動産株式会社

取締役社長 草野 義一

取締役 八谷 一郎

東京都中央区銀座西7-2-1 日軽ビル

(電話) 572局 2451~3

譽の北の酒

北の譽香蘭株式会社

取締役社長 野口 誠一郎 (昭9年卒)

専務取締役 糴谷 真一 (昭17年卒)

緑丘会員 15名

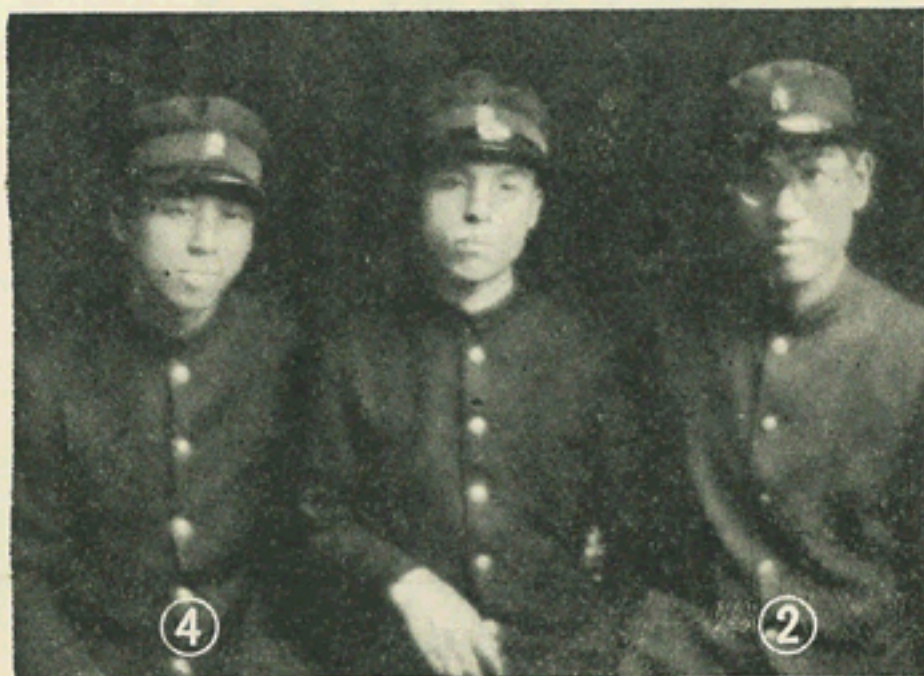
本社 小樽市奥沢町2丁目49番地

身にしむ北国の感傷

わが十代の思い出

京都支部長 森下弘 (大一四)

を赤らめながら買ったことを思い出す。わからないところも相当あったようだが、こつこつと読んだものだった。もしも私に幾ばくかでも思弁的なところがあるとしたら、その影響であつたらうと思う。「他人の運命を傷つける」ことへの恐れなど、それから幾年も経た後でさえ、ときどき思い出す。また有島武郎氏の諸著作が洛陽の紙価を高からしめてい



左から筆者、畑信太郎君、進藤孝二君

第一次大戦後の好景は大正八、九年頃まで続いていた。その頃、私は神戸で商業学校の生徒だった。当時の神戸は、月給取りの天下で、学生でしかも中等学校の生徒なんか、およそ下宿の対象となり得なかつた。大和の山奥から出て来た私には、騒然たる都会の生活と、この下宿難にはほとほと手を焼いたものだった。

ちょうど、倉田百三氏の「愛と認識との出発」がベスト・セラーのころであつた。元町の宝文館という書店で「愛」という文字に顔

たのも、その頃だった。「カインの末裔」や「生れ出づる悩み」などを読んで、北海道の山河に無限の憧れをもったものだった。

この傾向は、また岡本田独歩の小説に親しむようになり、例えば「空知川の岸辺」など、一部分暗記さえして「余は時雨の音の寂しさを知っている」あたり、口ずさんでは全く

感傷的になつたりした。いわば、およそ平素の生活とは反対の、単調と喧騒の都会生活から離れて自然こそこの上もない憧れの的となつたようだった。商業学校を卒業して進んだ高商が、遙か遠い津軽の海を渡った小樽だったこともこうした現われであつた。

大正十一年の四月の初め頃、在京の郷里の先輩に見送られて上野を發つて北上した。みちのくはまだ早春であつた。青森で伝馬船にゆられて青函連絡船比羅夫丸に乗船した。これがその後、私にとって因縁浅からざる北海道への初めての渡道であつた。

函館近くになつて前方に形のよい駒ヶ岳がほとんど麓まで白雪におおわれて望見された。北の海特有のわびしさと未知の世界へ一人行く心細さとが、憧れて来たはずの私にいい知れない寂しさを与えた。さまざまの人たちに、さまざまの思いを懐かせたであろう津軽の海は、私にとつていまだに寂しく、わびしく感ぜられるのも、この時の印象からである。炭かすと馬糞と石ころの小樽生活がこの時から始まつた。

当時、小樽高商生はマントに下駄ばきが多かつた。およそハイカラな高商型でなく、むしろパンカラな雰囲気であつた。既に亡き大西猪之介先生の残された気風は学生の間にビシビシと浸り、名著「囚われたる経済学」は小樽高商生のバイブルとなつていた。小樽の持つ独特の風格は既にあつたのだ。

「流れ流れて落ち行く先は」といふ歌が流行したころで、野性に富

んだ北海道の山河を歩きながら、この歌の持つペーソスが余りにも身にしみて青年の持つ感傷をいやが上にかき立てたようだった。当時の北海道の自然は、石狩平野にしても、いまとはことなり、かなりの荒けずりであつた。北国の春がその花やかさと清新さのなかにすぎ、郭鳥が彼方此方の木々の間で鳴き競う夏がすぎると、時雨とともに急に北国の晩秋がやってくる。このころ、石狩平野の一隅に立てば、恐ろしい冬来を予告するように暗雲が低くたれ下り、残り葉をゆるがす風は既に肌寒く、ことに暮れ近くの情景は自然の重圧と心なしさを、これほど感ずることになつた。当時、友人で詩人であつた現三井船舶の社長進藤孝二君が文学的に表現した「鉛愁」という文字が、正にびつたり当てはまる北国の秋更けであつた。「独歩」の自然は冷酷にして親しみ難く、人環は温かかして巢を作るに適している気がひしひし感ぜられたものであつた。黒色と灰色、そして白色としない冬、音もなく降る雪夜に友達と赤々としたストープを囲んで、トーストを焼きながら語り合つた思い出など、尽きるところを知らない。

こうして暖かい南の国、神戸から寒い北の国、小樽にかけて私は十代を終えたのであつた。ある人は私を文学青年だといふ。正に然り、十代の環境が、いつまでも私をして文学青年たらしめるのであろう。(みぶよもぎ)日本新薬KK社内報(から)

同期の桜

名古屋支部 高橋一男 (昭四)

各地に健在な、そして時至れば絢爛たる花を咲かせるであろう「同期の桜」である。

私が糸魚川伍郎君(現、三菱電機中津川工場勤務)を知つたのは緑丘に入學して間もなくであつた。伍郎君はたしか松本商業出身だから教室は別だつたが第二外語は同じ仏蘭西語をやつていたので、すぐ親しくなつた。当時先生は高橋助教で紋付羽織袴で我々の机の間を歩きながら「モーパッサン」や「ゾラ」の短編物をゼスチュアしたつぷりに教えて下さつた独特の風格はいまもって忘れ難い出来事だ。伍郎君はクリスチャンで学校と庁商の中間にあつたYM、C、Aの寮にいた。学生時代から、堂々たる体軀で柔道の選手だつたし持つて生れた毛並の良きで応擧な人柄は誰からも愛され慕はれた。私は叔父が旭硝子の小樽支店長をしていて、そこに厄介になつていたので何とかうまい口実でそこを飛び出し同郷の連中がそうであつたように適当な下宿に落つて勉強もしたかつたし、青春を謳歌したくてあせつていた。そして伍郎君に下宿の斡旋を頼んでおいた。

やがて市役所の下の一家揃つてクリスチャンのS家が真面目な学生を家族の一員として迎えるということだ、私が伍郎君の御目がねにかなつてS家の玄關脇の六畳の部屋に引き移つた。一年の夏休みがすぎた北海道の秋が馳け足でやってきたころである。S家には二人の娘がいて、二人とも強度の近視で分厚い眼鏡をかけていた。お姉さんは既に婚期を逸して、お台所と風呂場で一日じう働

いていた。妹のほうは御世辞にも美人とは言えないが番茶も出花の年頃であつた。御機嫌を損じないかぎりお昼の弁当のおかずにも影響はなかつたし、第一下宿料も安かつたし(三食付二十五円)公園に近い環境は申し分なかつたので卒業まで御厄介になつた。

一年の終りころ、も一人の高商生がS家の奥の六畳に移つてきた。佐藤清定君(現、日魯漁業重役)である。清定君とはそれまで、さ程親しくはなかつたが、同じ釜の飯を食うようになつて急速に親密になつた。清定君とは卒業以来、私の永い朝鮮勤務のせいもあつて、つい御目に掛る機会もないが、実によく勉強する立派な学生であつたし、私は苦手の簿記や会計を教へてもらつた。冬にはよく御令兄の吉岡二郎さん(当時大日本麦酒札幌支店勤務)がスキーを肩に清定君を訪ねて来られたのを憶えている。

卒業後縁あつて私も大日本麦酒に勤務、吉岡さんは仕事の面でも私の大先輩となつたが、勤務地の関係で滅多にお目に掛る機会はなかつた。本年八月大阪の墓目副支部長が実によきパパ振りを發揮、御息の夏休みに御一緒に上高地に行かれ帰途名古屋で近鉄に乗り換える短い時間ビールを酌み交して話しては緑丘人の思い出にあつた際、吉岡さんの御逝去を聞かされ愕然とした。御家族の方々、清定君に心から哀悼の意を表します。

誰しもが、そうであるように私も仙台の中学から緑丘に入學し、まだ融けやらぬ地獄坂の雪道を踏んで初めて登校し、教室に自分の席が決められた記憶は忘れ得ないが、隣の席に玉井英夫君(現、計理士)であつた。当時から、どちらかと言えば小柄な黒黒い頭髪をオールバックにした、しよつとやな文学青年を思はせる好青年であつた。私は算盤が何より苦手であつたが、英夫君は美に達者に細い白魚ならぬ黒魚の指先で器用に玉をはじいて、どんな難問でも見事に解答した。私のソーセイジのような指先で、はじく算盤は全く落第物であつたし、試験の時にはソツと名刺大の紙片を机の下から手渡してくれた友情はいまでも忘れ得ない。

私の算盤が見事及第点であつたのは全く英夫君のお蔭である。ただ生粋の浪花っ子である英夫君から大阪弁で、ペラペラやられるのには、全く閉口して時々合槌は打つもの、当時充分感謝の気持を表はしえなかつたのは申訳ないと思つて居る。最近一年に一回位は大阪にでて英夫君に逢う機会に恵れて三十年前の面影をそのまゝ残して御活躍の英夫君に心から御喜びを申し上げたい。



くに格好の家を見つけて、漸く引越してきたばかりだと知らされた。それから幼稚園に通っていた、同じ年頃の長男の手を引いて手弁当に水筒を肩に、凍るように冷たい溪流に紅葉の事な(名は忘れたが)京城の郊外にビクニックに行ったり、長谷川町にあった神戸海上の既に課長であった彼の事務所を頻りに訪問したりした。

やがて戦争の拡大とともに陸軍少尉の彼は応召して釜山で軍務に忙しかつたと聞くが、当時の混乱した戦時状態で御家族も郷里に引揚げられ、連絡も杜絶してしまつた。

終戦で裸一貫で家族とともに引揚げてきた私は緑丘出身北海道の気候風土には堪え得るとの会社判定によるらしく、岩見沢の奥にある傍系の小炭鉱に赴任させられた。その炭鉱は従業員四百人ほどの小規模なもので、炭質は優秀ではあるが炭層の条件も悪く、とても採算のとれる代物ではなく赤字続きであつた。

昭和二十五年その炭鉱の譲渡が決まり、大日本麦酒の二分割後の日本麦酒に復帰し、名古屋に赴任した。争議で明け暮れた戦後の北海道の炭鉱から漸く親会社に復帰出来たのだ。嬉しか

つた。赴任は子供達の夏休みの八月を選んで。八月初旬のカンカン、照りつける一日、妻と四人の子供を連れて小樽に行った、簡単に再び北海道に来れないような気がしたし、何よりも私の母校を見せたかった。平素言い聞かせている緑丘に学んだ私の誇りを実際に見せたかった。私の上着を持った妻も「末っ子」を「おんぶ」した私も地獄坂を登りつめて校門に立った時には、汗に、びっしょり濡れて荒く息づいていた。古い年輪が刻まれてはいるが、昔と変わらない校門脇の郵便受、そして守衛所、夏休みに入った学校は静まり返って、教を受けた先生も、その後の若い先生の姿も見当らなかつた。昔、よくそうしたように小樽の町を見下せる図書館横の芝生に腰を下して持参の弁当を開いた。

水天宮の森を狭んで横に長く延びた町は変わらなかつたが、港には船がチラホラ聞き慣れた気笛の音は聞く術ともなかつた。私は訳もなく、こみ上げるものを感じて子供達から離れて校庭を行ったり来たりした。名古屋に落ちついて間もなく伍郎君が会社に私を訪ねてくれた、それは未亡人である彼のお姉さんの唯一の御子息が秋田鉱専を卒業して、かつて私のいたその小炭鉱に就職が内定したとのことである。

伍郎君は言はゞ親代りとして、何かと相談にも乗り、親一人、子一人誠心深い好青年でもあると話ししていた。僅かではあるが、私の勤務体験から、その炭鉱が企業として将来希望が持たないこと、坑内条件

偶感

葉隠道人 (大一一)

の悪いこと、専門学校を出た有為の青年が行くには適當でないこと等を話した。

それから一年もすぎなかつたと思うが、その青年が、その小炭鉱で坑内事故で亡くなられたと聞かされた。

嗚呼、私はその青年の就職を思い止らせるよう伍郎君をもつと強く説き出さなかつたらうか。同期の桜として私の友情に欠くる所はなかつたのか、伍郎君は親代りとして岩見沢の奥に遺骨引取に行つたのだ。

(サツポロビル名古屋支店)

世のなかには何んでもないことを何かあるように、そして当りまえでないことを、さも当りまえのようについていわれて、書いてあつたりするところが案外多いものである。私のこの偶感も、その類を出ないと思うが老人のたわ言と御笑読下されれば幸いです。

グリコの江崎社長は企業における新企画は総て2+2=5を考へて立案せねばならないといわれたが、江崎さんの考へは5では足らず+アルファがあることと推察してゐる。私は+アルファについて考へて見た。終戦後みずから飛び込んで中小企業の経営に直接、間接、憂身をやつして参りました私は企業の育ち行く課程に快楽と苦痛の幽境(亡友小林北一郎君の名句)を見出し、生き甲斐を感じる境地は、およ

を始めから大企業に就職された方々の味わい難い妙諦ではないかと考へています。

私は此頃企業の育ち行く姿を眺めて円形に発展して行くように見えます。円の面積は御存じの通り、半径の2乗に円周率をかけて算出されることは初等算数の知識ですが、企業の発展は直線的に伸長するものではなく、円形に拡大して行くのが理想ではないかと考へています。

そこで、まずこの半径に重要な意義を見出します。もちろん六カ敷い理論は学者や有識者の方々に委せますが、永年、中、小企業で苦勞してきた私としては半径の構成要素の分析に当つても自力中心の見方をするようになりませんが、ここでいう半径はあくまで企業体自体の要素であると考えます。端的にいえば資本、経営者、従業員となりませんが、資本の過小、過大も問題だし、経営者の能力手腕、経営理念の如何も考へねばならず、さらに従業員の質と量も大きな部分を占めています。これ等の要素が、その業種の繁閑により、あるいは時と処により適格に総合された所に半径が自から伸長し、良質化されていくものと考へられます。ただ半径の一要素である資本金のみが伸長しても円の面積は拡大せぬことを銘記せねばならない。重要なことは、それ等の要素の総和である。そこで、この総和の2乗という意味を考へて見る。いまかりに二つの企業体を例にとつてみよう。一つの総和を5とし、一つの総和を8とし、夫々これを2乗すれば、一つは25となり、一つは64となる。すなわち当初

3の開きが36の差を生じている。もちろん企業間において現実に、そんな差がつくものかと異論があると思ひますが、終戦このかた私が見てきた企業発展の様相は、これ以上の開きがあることを実証しているが、ただここで私の申し上げたいことは円の半径となるべき要素の総和が如何に重要な意味をもつかということである。

だが、しかしここまででは仏教でいわれる小乗である。これだけでは足りない。

そこで最後に申し上げねばならぬのは円周率のことである。御存じの通り算数では三・一四一六ですが企業の場合には、この率が大きな意味をもつ、被乗数が如何に大ききても乗数が零であれば答は零となることは算数の教える所、半径が如何に大ききとも円周率が零であれば円は出来ぬ。この理論を企業にあてはめると企業の存続はあり得ないということになる。

そこで、円周を逆にいえば周囲である。企業自体の周囲には政府の施策、金融、情勢、財界、特にその企業の属する業界、事情、得意先、情況、友人、知己等外部よりの支援が挙げられるが、いま此処では等について一々云々する紙面はもちません、中、小企業にあつては全面的に是等の恩恵に浴することは容易ではありません。しかし私は周囲の恩恵は如来の無碍光(むげこう)に通ずるものと考えています。踏みわけよこの奥山に道もありで誠意と熱意と努力次第でこの有難い光に浴し得るはずで。こう考へて来ますと企業

異動

栄転

- 發展の実相が円形に拡大して行く事が背かれるような気が致します。如何でしょうか?
- 諸彦の御叱正を得ば誠に幸甚に存じます。
- 岩沢 正二(昭一〇) 住友銀行総務部長 (業務第一部長)
 - 十二町恒次(大九) 株式会社 日本起重機製作所
 - 高瀬 純一(昭一六) 富士銀行検査部(東京都中央区日本橋通二ノ三、日本橋富士ビル五階)
 - 山田 稔(昭一六後) 北海道拓殖銀行東京事務所(名古屋支店勤務)(東京都中央区日本橋通一ノ六)
 - 武岡 達良(昭一一) 住友石炭鉱業株式会社取締役(人事部長)
 - 森 満郎(昭九) 日東証券株式会社取締役社長室長(本店調査部長兼企画室長)
 - 惣万 四郎(昭一一) 北海道炭鉱汽船依願退職(営業部道営業所若小牧出張所長)
 - 牧口 精一(昭一五) 北海道炭鉱汽船仙台営業所長(北海道営業所室蘭出張所長代理)
 - 北村 幸(昭一四) 呉羽紡績業務本部企業部長(人事部本部人事部長)

- 林崎 二郎(昭一一) 三菱銀行馬喰町支店長(同行品川駅前支店長)
- 長尾 昌弘(昭一七) 北海道拓殖銀行赤羽支店開設準備委員、開設後同支店次長(大阪難波支店次長)

- 塚本 正嘉(昭一六後) 北海道炭礦汽船営業部業務課長代理(業務課炭礦係長)
- 大谷 健三(昭一七) 北海道炭礦汽船営業部現務課長代理(道営業現務係長)

東洋木材企業株式会社

トーマクの段ボール

東京都千代田区丸の内2の18 (内外ビル) 電話 (281) 2746~9

- 綱島紙器工場 横浜市港北区樽町1580番地
- 手稲工場 札幌郡手稲町字稲穂295番地
- 大阪紙器工場 大阪府北河内郡門真町大字門真880
- 名古屋工場 名古屋市南区明治町3丁目13番地

東横デパート副社長に抜かれる

緑丘 余話

山本完二氏(昭七)

経営者 スカウト1号!

東横百貨店に引抜かれた伊勢丹山本重役の場合



十月七日の週刊サンケイは経営者スカウト第一号という大見出しで山本氏を特集した

本完二氏(昭七)の伊勢丹常務から向いの東横デパートに引抜かれた記事をとつてトップニュースとして四頁にわたって堂々と伝えた。ニュースは決して新しいものではない。今頃「緑丘」誌に掲載することさえ笑止千万であろう。九月末には市場に現われたニュースであるから。「緑丘」誌に「緑丘十年後のビジョン」を投稿したXYZ氏は、この位の予測をしておいた、まだまだ引抜かれる経営者が小樽の場合あとを絶たぬであろうという。

さて週刊サンケイに掲載された記事を御紹介しよう。週刊紙をお読みにならなかった人のために――

東京・新宿の「伊勢丹」常務取締役だった山本完二氏がこんど目と鼻のさきの渋谷の東横デパートにスカウトされて、副社長に迎えられる、というケース。

山本氏は七月いっぱい、伊勢丹を退社した。

伊勢丹では、八月一日、小菅丹治社長と山本氏の連名で、関係各方面に「退社」の挨拶状を送るとともに業界紙の記者会見を行ない、声明を

発表した。

一常務の退任としては、ちょっとばかり大げさな、という感もなきにしもあらずだったが、なにしろ、デパート業界に人材を求めれば、「東の山本に、西の田中(大丸)」といわれるほどの人物。

業界紙は、こぞつてトップ記事にし、論説で報道した。――会社としては、強力な機関車を失ったようなもの(日本百貨店新聞)。

――個人の山本よりも、業界の山本として、大きな話題を提起した(デパート新聞)。

――伊勢丹での近代企業づくり人づくりの基礎は、ほぼ完成したとして、(山本氏は)辞意を表明されたものです。

といったような記事では、たしかに、なぜ辞めたのかは、わからな

の耳をそばだせたのだった。

「ぼくは、地位のことなど、つゆ思わなかった。男は生まれてきたら、仕事をしたい。それだけだ」と口を切ったあと、山本氏は、

「ぼくが、まず最初に考えたことは、社員には定年があるのに、役員には定年がないのはおかしいのじゃないか、ということだった。で、伊勢丹にずっといるのがいいことなのか、悪いことなのかを考えた。雇用制度の上に安住することの危険を知った。伊勢丹は百貨店としての仕事は一段落している。あとは補正していくだけだ。ぼくが辞めても大丈夫だとわかった。ぼくが辞れば、やがて五人、十人の後輩が上がっていくのだ」

緑丘人らしい事をいう。しかし、その陰には或いは封建的な世界があったのではないだろうか。

店員から初の取締役として登用され、昭和三十五年、常務取締役に就任したとも書いてある。

五島社長は、

「不平不満から、自分から飛び出した人をスカウトするのは渡り職人を拾ってくるようなもので、いずれまた、飛び出されてしまう。山本氏の場合、自分では辞める意志はなかったのだが、オレが、身を任せてこいと、自分でどいたんだ。ともかく、彼は憎まれて然るべき問屋連中から、ベタホメだったんだから」とスカウトの理由を語る。

東京では一つの話題であった。たのもしきかな山本完二氏御健斗を祈る。

「ペギー・葉山さんと大先輩」 住吉貞英氏(大六)に感謝する

若山 永太郎

丸嘉機械(株)常務取締役
昭一三一(大阪支部幹事長)

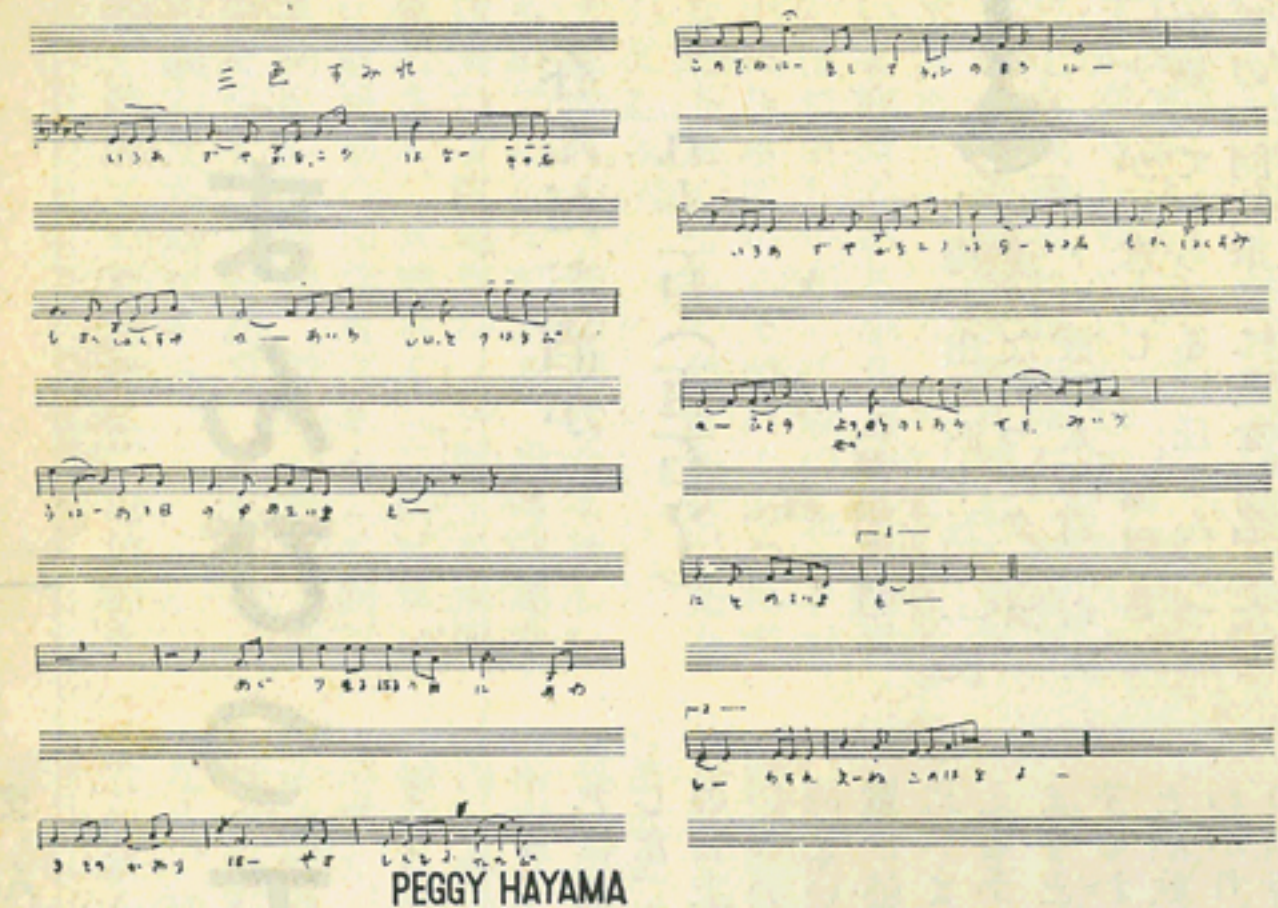
本年々初に我社の社花(カンパニーフラワー)を三色すみれ(パンジー)に制定した。

どの花が最も適当かという研究究された結果、ポビユラーでみんな

に親しまれている三色すみれ(パンジー)花言葉「快活な心」が、わが社の社花としてふさわしいとの結論に達し、全社員の賛意を得、正式に社花に制定された次第である。

先般ある会合で副支部長の

の墓目英三兄に御会した時、そのことを、御話したら、仲々博識の同兄から「たしかこの間ペギー、葉山さんがNHKから三色すみれの歌を放送して居った。NHKに話して楽譜をもらって、社内でもみんなで歌ったら効果的と思うが。」



PEGGY HAYAMA

なおペギー・葉山さんの伯父さんに当る住吉貞英氏は大先輩ですよ。」と大変結構なアドバイスを戴いた。

早速NHKに照合したら「当方にはないから直接ペギーさんに御願ひしてみたら……」という御回答であつ

た。そこで甚だ失礼であつたが、伯父さんの住吉貞英さんの後輩である旨申上げて直接ペギー・葉山さんに書面で御願ひした。そしたら早速このほど次の御手紙とともに、別掲楽譜を頂戴した。

ペギー・葉山さんの御好意と、また伯父さんに当る、大先輩住吉貞英氏に本紙上をかりて厚く御礼申し上げます。

若山常務様
御望みのパンジーの歌(本名は三色すみれです)の楽譜を御送

緑丘通信

- ☆元校長苦米地先生長寿(八十路)祝賀会が十一月九日(土)東京支部が中心となり芝白金町迎賓館において賑々しく開催され、記念品贈呈式が行われた。
- ☆西野嘉一郎氏(六一五)――芝浦製作所専務――は九月十八日NHK教育テレビに「減税問題の焦点」について大熊慶大教授、木村元一氏、泉氏らと共に座談会に出席「法人税減税」について所信を発表。
- ☆十月十八日広島支部が誕生しました。
- 支部長 中野清一氏(六一五) 副支部長 鈴木恵三氏(昭九) 同紀

り致します。

皆様と御一しよにお歌い下さいませ。

貞英伯父とは時々逢います。あの伯父は、私、一番親しみを保持している、話せる人です。

伯父に話しましたら喜びますのでしよう。

貴方様の御多幸を心からお祈り致します。

九月六日
ペギー・葉山

野重仁(昭九)幹事 小林平治郎氏(昭一六) 西原宏氏(昭三〇)

☆母校弓道部が神戸王子体育館で全国大会に参加したことは前号に発表したが椎名元教授は、その歓迎会の席で学生達にボケットマネーを渡して神戸元町でも散歩して一杯やって解散してくれと別れを告げた。その後母校に帰った弓道部員からの礼状に「過分の御寄付をいただき、御蔭様で弓一張購入することができ部員一同感謝いたしております」と、いたく先生を感激させた。いまの若い者に似合わず立派なものだね。僅かのお金を大事に学校まで持って帰って弓を購入したとは。

☆朝日ジャーナル十一月十日号「大学の庭」に小樽商科大学を伊藤整氏の筆で紹介。グラビア三頁。

まんびつ五人集

次回

広岡 下吹越
八木家 八平
大八

一男 (大八)
吉 (大三)
要 (昭七)
安 (昭一四)
善 (大八五)
善 (大八五)

呑んだお酒が

五十石(百石?)

松本 義一 (東京支部)



小樽を出て四十五年一度も逢はなかつたクラスメート川根百太郎君から突然ハガキが届きました。裏目さんの編集しておられる緑丘まんびつ五人集の次回執筆者に私を指名したというゴ託宣のバトンタッチだったわけです。川根君がどうして私を指名する気になったか、何が私を思い浮かべさせたのか一寸見当がつかないのですが、いづれは第四寮時代の思い出からきたことだけは間違いないようです。

さてそうして覚えた酒の味は運動とは無関係にどんなに進んで行きました。第四寮でも一二を争う酒豪にのし上がってしまったわけで、自然いろいろな話題を播いた次第です。酒といへば半世紀の間に私の飲んだ量は随分たいしたものだったろうと思えます。或は五十石いや百石を超えるかも知れません。仮に百石としますと一升壺で何んと一万本にも達するわけですね。酒の効用などという酒飲の口実と一笑に付されるかも知れませんが、ともかく酔った時の気持は全く仙境に在るに等しく、純真そのものとなり、その効用は無垢の童心になり切れる処にありませぬ。二十数年前に仕事のうえて、おぼえた人で、Kさんという或る有名会社の社長ですが、今でも欠かさず度々逢っては一こん汲み交し、健康を祝し合っております。

郡君も辻川君もブユールリタンで、濃厚篤実な学生であるのに私は名うての呑平です。ある夜したゝかに酔の廻った私は、この君子人辻川君の嫌やがる口へしやにむにビールを注ぎ込んだものです。当の辻川君より見ていた郡君の方が立腹され、それ以来というものは廊下で会っても顔をそむけ、一口も口をきいてくれなくなりました。流石の私もこれには全くなまぬりました。そのまゝの状態で卒業し別れて去るのは何としても後味が悪いので辻川君に詫言いで貰ってやうやく郡君のおゆるしを得、ホットしたことを覚えております。郡君の助先生は南亮三郎先生とともに私共自慢のクラスメートであり、小樽高商が生んだ数少ない学者の一人です。どうぞ、この上共御自愛を。

酒仙という方でしよう。一度遅く酔って自宅へ帰られ、玄関に迎へられた奥さまに「女将いい妓が居るかね」といったという伝説が残っているような好紳士です。その宮崎先輩と今ウチ(東洋製缶会社)の副社長の佐藤君と三人で高商の真下で旧庁商の真上へそれぞれ家を建てて住むことになりました。それから永い間、そこから手宮の会社迄で一里余の道をあの地獄坂を下って通ったものです。その後東京へ引越してからは残念ながら一度も山(高舎)へ登ったことはありませんでした。

何しろ私は余り勉強はしませんでした。遊びほうけては人後に落ちないほうでした。角力は部の選手でした。剣道は小学校時代からのものですし、それに冬はスキーで方々の山をかけ廻りも致しました。運動したあと、みなと一緒にビールを飲んで談笑するのが何よりも楽しく、その味いは終生忘れる事の出ないものとなってしまいました。

そして最近どちらが先に逝つても残ったほうが葬儀委員長をつとめる約束が出来てしまいました。反面失敗も決して少ないわけではありませぬ。其内の一つ、第四寮時代のことです。郡先生の漫筆の中にも出て来る人で同級の辻川基三君と郡君と私との間に酒をはさんで起つたほろ苦い思い出がございます。

私は大正十三年から昭和十三年に東京へ引越して参りますまで十五年間も小樽に在任いたしました。そこは北海製缶会社という缶詰の空缶を造る専門の会社で、そこには大先輩宮崎省三(第一回)さんがおられ、総務経理担当部長でした。いまは日魯工機会社の会長に納まって居られますが、どうして中々の酒豪で、しかも非常に良い酒(酒のみ)で所謂

小樽へまいりました節に大野学長と逢う時も学長に山を下つて来て貰ったものです。余りにあの坂を這いすぎたせいもあつたかも知れませぬ。しかし、これからは行く機会も少いでしようが、老妻や孫たちを伴つてあの長い坂を登り、四十幾年前のあの門をくぐつて校庭一面にしきつめたクローバーのなつかしい匂を深ぶかと吸つて見度いと思つております。

大陸のおもいで

奥田 直 (東京支部)



同期の小島憲市君からバトンを渡された。同君とは大正九年緑丘を卒業すると同時に、福原君、光井君、私を入れて四名、小樽高商としては始めての満鉄入社仲間である。

就職が決定してから、渡辺校長に呼ばれて、後進のため自重してほしいこと、終生を大陸で働く心意気であつてほしいことなど懇々論された事をいまもって心の奥底に残っている。

住心地がよかつたせい、校長の訓言が身にしみてたのか、四人とも二七年間満鉄に職を奉じ、終戦後幾多尽きせぬ夢を大陸に残して引揚げてきた。

いま病床にある小島君からの時折の片信に淋しいが「大陸のおもいで」に生きていて書いてあつたが私なども全くその一語に生き甲斐を感じている。

大正時代の大連の緑丘会も懐かしいおもいでの一つである。当時阿部幸支店長の下吹越さん(一回)を筆頭に奥村さん、大熊さん(二回)、ロンドン新帰朝の加藤省三さん(二回)三井物産には宮崎、増井、谷本、松原のそうそうたる諸兄、よく集り、よく飲んだものである。遠く離れていただけに、母校の先

生や学校関係の諸兄が来訪される事もまた楽しみの一つだった。姫路高校に行かれた木村先生や、福島高商に転ぜられた石橋先生が、学生を連れて来満せられた時、新設校で先輩のなないため、案内から招待まで緑丘会で御世話したので、同行の学生諸君から小樽高商の師弟関係は羨ましいと讃嘆の声を聞いたのも嬉しいことの一つだった。

昭和に入り満洲国の誕生に伴い、内地各方面の事業が進出するに従い緑丘出身者も年毎に増加し、終戦時には満鉄関係で約三十名、其他で三十名、約六十名の緑丘出身者が、新天地の発展を夢見て働いていたこととおもふ。

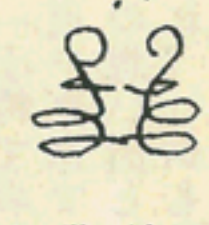
私は永い大陸生活で、公私中国人との交友技術も多かつた訳だが、いままなお中国人に対して人一倍懐かしさと尊敬を感じる。

過去の偉大なる文化と伝統から育み、そだてられた民族性には底知れぬ深さがあるとおもふ。

日清戦争で小国日本に敗れたり、歐洲各国に租借地の提供を余儀なくされたり、正に巨象が狂犬に足を噛まれたような様相を呈していたが、要は百年余に亘つて中央に強力な政府がなく、地方軍閥の寧日なき内訌総称なり、などと極端な批判をさへ浴びた。逆説を許さるゝならば、この政治の混乱怪迷が強大な民族性を培つたものと思う。頼る可き法に力なく、時の為政者に全幅の信頼おけない社会において、民衆は自己の力

浜名湖の緑士会

功力 素重 (静岡)



大正八年(四十五年)前)小樽高商へ入学を許されて、郷里山梨県からただ一人で渡道したわけだが、汽車のなかで、ぐっすり寝込んだため、財布をすられて切角の入学資金を全部失つた失敗談は何時か書いた所である。

余談はさて、学業を終へ就職してから既に四十数年を経過したわけだが、年を取るほどになつかしいのは同窓生諸君である。私は甲府中学の出身だが私共中学の先生であつた小尾範治氏が小樽高商の教授となつて北海道へ行かれた関係もあつて、同窓の渡辺兵弥、河西武徳の両氏と私とが三人仲良く小樽へ入学したのであつた。

その両君は既に他界して、いまは私一人となつたが、渡辺君等は実に数希な運命をたどつた人で、丸顔兵弥(丸橋忠弥)として有名な男であつた。

私は大正十一年の緑丘卒業生の会合である「緑士会」のメンバーであり、この会こそ緑丘会のみならず永続している立派な卒業生会であると思う。緑士会は同期の杉山昌作氏等の並々な努力で、つづけられており、従来五年に一度位会合をやつて、全国から多数の会員が参集して来て、実に盛會に盛會を極むる同級生会である。それが年老いた所為も

あつて近年は毎年合会を重ね、昨秋は伊勢の浜島で、そして本年四月はこの浜名湖で集会をやつたのである。年令も六十三、四才の中老連が遠路もめげずに二十人から集まつて来て大変盛會を極めた次第である。

浜名湖は私の住居のある所であるが近來すっかり景観を変へて、弁天島には大きなホテルが幾つも建つたし、また観音寺だとか瀬戸の吊橋だとか姫様道中の桜並木だとか、一見に値いする良い景観が沢山ある。浜名湖は東京、大阪の丁度中間でもあり、近くには浜名湖ゴルフ場もあり一日の清遊には退屈しない場所が沢山あるから、同窓諸兄も是非お出かけ願ひたい。

次回の執筆者は神戸銀行八家要氏を御願ひします。

(大一一 新日本紡績社長)

ABCソサエティとストリさん

金井 勇

(札幌支部)

英会話の集りABCソサエティから誘はれて、ある夜会員の集まる外人官舎を訪れたのは、たしか緑丘生活二年目の半ばもすぎた昭和十二年の冬も間近い頃と覚えていた。

その頃地獄坂をのぼり、正門を過ぎてから山上グラウンドへ通ずる坂道を一、二丁ほどのぼると、左側に美しい流れ屋根をもつた瀟洒なライト

グリーンンの建物が二軒並んで建つていたのである。ベルを押すと迎えてくれたのが、強度のメガネに美髯をたくわえた童顔の紳士G.R.ストリ教師であつた。すでに集つていた面々は、飛塚誠一、本宮正、沢登源治清水由郎、八木安、それに竹島篤二郎の諸兄である。メンバーはいづれも英語週九時間の組を撰択しているツワモノだけに、フルエントな調子で思ひの儘に会話を楽んでいる様子は、週五時間組の英語に弱い私にとっては、羨ましい位よきものであつた。またこの家の主人デイツクさんは、その年オックスフォード大学のレポートとメルトンのカレッジを卒業して小樽に赴任してきたばかりの二十四才独自の歴史学の学士さんではあつたが、話す英語はいわゆるキングスクラウンイングリッシュの歯切れよい解りやすいもので、私の耳にも心持よく響いたが、それよりも私にとつては、彼の濃厚な人柄のかもしれないだす雰囲気はなにかしら強い大きな魅力を持っていた。

ある日、ソサエティのメンバーがいつしよに札幌へ出かけることになつて小樽駅に集つた。改札時間に遅れぬように、みんなに忙がせようとして「シヤルウイゴ」と私が呼びかけたとき、彼デイツクは初めてひとり英語をタイムリーに話しかけた私に「オヤ」といふ顔つきで注目してくれたのが、いまでも思ひだされるのである。その後次第に会話の機会が多くなるとともに、心臓も強くよく引受けてもらい、卒業まで、そ

の外人官舎で彼と起居を共にしたのであつた。私からは英語で話かけ、彼からは日本語で返事を受け、お互に覚つかない多言語をあやつりながら日常生活をしたわけであつたが、日英相互の生活様式、人情習慣等の小さな問題から大きくは当時の国際情勢などまで話の材料には事欠かなくなつた当時の事が想ひ出される。

三年の任期が終つて昭和十五年彼は小樽を去つたが、駅頭に見送りのため集つた数多くの老若男女はいづれも彼が再び日本に来てくれるのを心から待つ人々ばかりであつた。

終戦後昭和二十四年秋、彼からの手紙でアメリカからの帰国の途、日本に立寄られた事を知つた私は、戦前からの預り品、それは高商から小樽の港を眺めた三十号ほどの油絵とアイヌの刀などではあつたが、一まとの品を持って横濱港に駆けつけ辛じて出港直前の船上で再会はしたもの、十年間の旧交を温めるのには余りにもあつけない三十分であつた。私は次の寄航地神戸港まで陸路足を伸ばして漸く一晩スキ焼をつまきながら、お互の無事を祝し、つもの話を聞きあつたのである。戦争中彼は知日英人として極東戦線に従軍させられ、シンガポール陥落の際、辛じて脱出した船が日本軍に沈められ、九死に一生を得て本国に戻つたこともあつたらしい。今回は美しくイドロシイ夫人との新婚旅行で、北海道へ行けぬことを残念がっておられたが、必ず来日することを約束されて別れたのであつた。その後、彼の約束は当り、二十八

年豪州国立大学の研究者として奥様と愛児テレンス君をつれて来日、東京成城に家を持つて年願の日本近代史の研究に没頭されたのである。上京のつど、彼の家に世話になつた私は竹島君とも、そこで再会しメンバーの事を想出しながら楽しい半日をすごしたこともあつた。また十八ヶ月の滞日中に彼多年の夢、小樽再訪も実現し、若き日の跡を想出多かつたのであつた。

帰国後三十年からはオックスフォード大学のセントアントニーカレッジの東洋史講座を受持つ事になつたが、彼の研究は実つて三十一年に「The Double Patriots, A Study of Japanese nationalism」の出版となつた。

また近代史の資料蒐集のため三十三年の冬から三十四年にかけて四度目の来日の際も寸暇をさいて冬の北海道でスキーを楽しみ、私の家に泊つてくれたのもついでこの間のことである。

帰国の翌三十五年第二の著書「A History of Modern Japan」を英国ペンギンブックス社の近代史シリーズの一巻として出版されたが、彼がその巻頭に「For Isamu」と書き「小樽での日々、そして戦後の北海道や東京でのいろいろの折にふれたの想い出して贈る」とタイトルされ、しかも私の誕生日六月二十二日に出版してくれた彼デイツクの好意に対し、私は胸一杯の感激を覚えていたものである。

信社より「日本現代史」として出版されたが、松本氏は「日本近代の思想や政治外交の移り変わりをストリさんのようにわかりやすく書いた本はなかなか見当たらないし、史実のなかで私の知らないこと多いのに驚いた。この本が日英親善に、また日本人自身の反省のため役立てば幸いだと思ふ」と語られてるのは、ストリ氏がいかによく日本を理解しているかを物語つて大へん愉快なことではあるが、同時に私たち日本人に対する大きな警告が秘められている事にも注目すべきであると思はれる。

敷四等瑞宝章を貰い、ロンドンの日英協会役員としても活躍されているデイツクさん。ぜひまた近い内に来日されん事を祈るものである。ソサエティのメンバー諸兄近況も知りたく、次は名古屋市在住の八木安氏にバトンを送ります。

(北日本電装株式会社社長)

セーラムの博物館

鎌田 正三

(札幌支部)

私が昨年滞在していたアメリカのポストンというところは、日本に関する美術品の多いところである。たとえば、ポストン美術館の日本美術品の蒐集は有名であり、仏像、日本

画、刀剣類等美事なものである。ことに、浮世絵のコレクションは多すぎて一般の展示室には余りなく求めに応じて別室でこれを供覧するといつたほどである。日本に限らず韓国、中国、印度をふくめて東洋一般の美術品蒐集では世界一ではなからうかとの評さえある位である。

このポストン美術館の美術品を美事ではあるが、これとは別にもつとくだけた日本に関する美術品を展示する博物館がある旨を、ある知人から知らされ行つて見た。ポストン北方の大西洋に面したセーラムという小さな港町である。この町は文豪ホーソンのゆかりの地とかで、その記念の建物もあるが、またその昔清教徒が異教徒を魔女狩りと称して虐殺した、いわゆる「サレムの魔女」でも有名である。

この町はまた十九世紀にポストン商人がここを中心として南米の先端を回り、太平洋岸沿いにアリゾナ、アン列島を経て日本、韓国、中国に赴いた基地でもあつた。頃は幕末、明治維新のさいである。従つて、ここにある日本に関する蒐集品はその当時持ち帰つたもので、当時の庶民の生活に密着したものばかりであり貴重な風俗写真もかなり豊富である。良くこんなものまでと思うもの

が大部分であるが、そのなかに火消しの「い」組か「ろ」組かの「まとい」とか、長大な薬屋の木の看板等もある。「まとい」は当時の火消しの精神的支柱であり、薬屋の大看板とともに、どうして持つてきたものか、良くも持つてきたものである。

その他の日本でも見たことのないコレクションにも全く驚きかつ呆れ返つたほどである。ある著名な日本の民俗学者が、この蒐集品を見て日本に返してほしいと言つたそうである。この博物館は町の繁華街に面してあるが、入口が小さく人目につき難く、ホーソンの建物、魔女の家ほど有名ではなく、日本人にも余り知られていないようである。

ニューヨークに行かれる機会がある方は、汽車もあるそうなので、もし興味がおありでしたら一覽をお奨めしたい。

次は一橋大学大平先生へ。
(昭一一北海道大学経済学部教授)

「浜林生之助先生特集号」

原稿募集
濱林生之助先生特集号を計画しております。御息浜林正夫氏より写真、年譜等の御協力を得ましたので、「思い出の記」を御投稿下さい。
送附先 十一月末
大阪市東区道修町三丁目一
塩野義製薬株式会社 目録英三宛

投資に反映する伝統と近代経営

日東証券

本社 東京都中央区日本橋兜町1-1 TEL 0381-700
大阪支店 大阪市東区今橋2-16 TEL 031-7603-9
校友 相談役 大山謙吉 (大正8年) 取締役社長室長 森 満郎 (昭和10年)

まんびつ執筆者

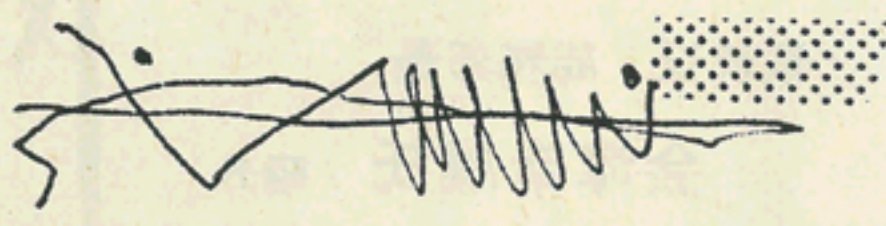
- (大三) 高橋徹男
- (大四) 八木康之助
- (大六) 伊東小四郎
- (大八) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本明次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一
- (大九) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
- (大一一) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重
- (大一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎
- 古関周蔵、大久保鹿次、大井義郎
- 渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
- (大一一四) ほろにが太郎、片岡亮一
- 小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大一一五) 増田常次郎、中野清一
- (昭一二) 黒羽秀夫、牧野吉男
- (昭一三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭一四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英夫、宇山慶三
- (昭一五) 池田啓助、井藤久也、吉川友記、北村太治郎、横井七之助
- (昭一六) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄
- (昭一七) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一八) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、藁目英三、本間誠一、鎌田正三
- (昭一九) 内藤好生、皆川荘一、西谷作太郎、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作
- 森川正明、石川孝一、浅田厚
- (昭二〇) 江川裕一郎、若山永太郎
- 木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫
- 丸山弥、平木勇三、金垣英雄
- (昭二一) 伊原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝
- 老岐準雄、河西辰男、沢村薫、石黒政夫、北条恒一、三浦正、飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇
- (昭二二) 相原正美
- (昭二三) 中村平之助、小林芳美
- 松村克巳
- (昭二四) 榎谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭二五) 牧口富伍、リトル・ラン
- ドナア、服部奎吾
- (昭二六) 北野巧
- (昭二七) 古内一成
- (昭二八) 石津洋三
- (昭二九) 小田島和夫
- (昭三〇) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
- (昭三一) 神田隆志

西野嘉一郎君の新著を語る

西川正己 (大一一五)

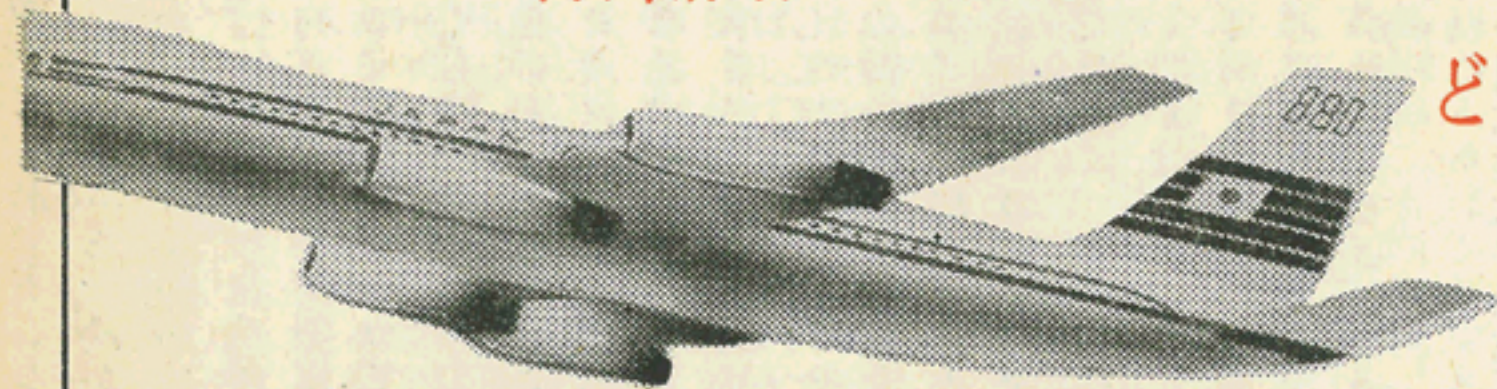
大正十五年母校卒業後実業界の本筋道を歩み、しかも仕事と並行して仕事に密接な関係のある「経営分標」の研究に一生を打ち込み、博士となり、国鉄監査委員、公認会計士審査会委員、産業合理化審議会委員日本経営者団体連盟常務理事その他専門委員を幾多兼ねておられるばかりか早稲田大学商学部にも出講しているその道の専門学者が西野嘉一郎君である。その西野君の大著「新版近代経営」を一介の英語教師である自分が批判できよう筈がない。友人がこんな大著を公刊したその喜びを緑丘同学のできるだけ大勢の方々に御披露したい——ただそれだけの願いでこの小篇を認めます。当らざるの所は素人の悲しさと御許しを願います。

「近代経営」A5三七〇頁におよぶ大著。東京都千代田区丸の内ビル五階中央経済社刊。九五〇円。本年五月十五日初版発行、すでに書店で御覧下さった方々も多いと思う。日



海外旅行の自由化が近づきました!

どうぞ旅行の御相談を!



海外・国内航空券
 海外旅行
 国内旅行
 外人旅行

IATA 公認代理店、日本航空、全日空、外各社代理店

太平洋観光株式會社

- 本社 東京都千代田区丸の内2の18 岸本ビル
Tel. (281) 0462・0463・4062・4063・9864・9865
- 銀座 東京都中央区銀座西3-3 銀座ビル
Tel. (535) 2874・2875・4812
- 大阪 大阪市南区大宝寺町仲之町52 大仲ビル
Tel. (271) 4166・8044
- 札幌 札幌市北二条西三丁目一 越山ビル
Tel. (4) 7913・0181の内線7071



本生産性本部コスト、コントロールチームの団長として渡米し彼地で見た新しい経営技術や各種専門書を読破してまともな得た新知識を基に先年「これからの経営」なる好著を出版した。本書はこの書を整理し根本的に書き改めて新たに上梓した「経営者、組織、財務のあり方」の三者の見事な総合解説書である。そして

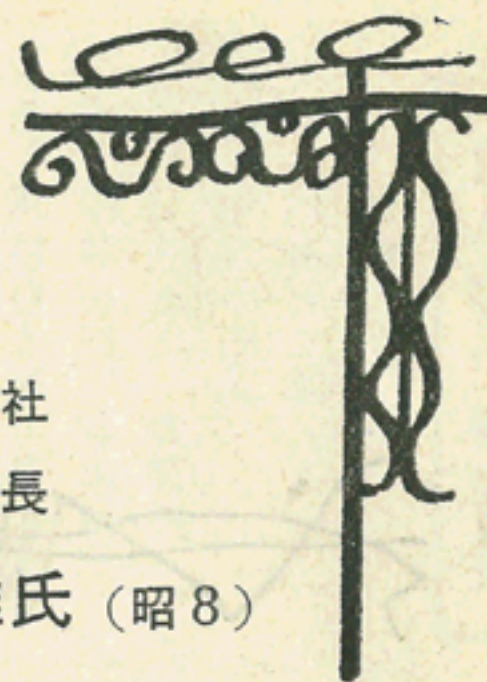
第一部 近代企業における経営者
 第二部 近代経営組織の焦点
 第三部 財務管理の近代化
 の三部門にそれぞれ西野君独自の見解と懇切極まる幾多のアドヴァイスが述べられていてどの頁にも新経営技法を武器とする技術革新への熱意が感ぜられる好著である。「速かに自己啓発と経営者教育の態勢を整えることが急務」である変貌する近代企業において「新しい課題」として取上げられる幾多の問題が余さず本書の中に取上げられている。

近代企業に二つの基本的職能がある。一つはマーケティング、他はイノベーションである。イノベーションの中には製品サービスの面での革新ばかりでなく経営組織の改革という大きな問題が含まれていることを巻頭に指摘して新しい経営組織の「三原則」をPドラッカーの所説を基に詳細に説明しトップマネーシメ

ントの重要性や分権制についても適切に言及して経営者の自愛を促している。それには一一各種事業の代表会社について実例をもって説明を加えてあって一読著者の所説を了解することができる。

近代経営の中心問題は経営組織の革新にあるとのべ分権化の組織の革命と推進を力説し、新しいミドルマネジメントの重要性にも触れている。第三部は著者の最も得意とする財務管理の近代化の問題を取扱う。公共団体会計に複式簿記を導入せよという著者の見解は朝日新聞にも評論が発表されているが、近代企業の財務管理が厳密な長期計画の下に総合的な組織を持つべきことはいまでもない。本書第三部はこうした長期計画とその策定、利益管理の新方法、資金管理等の諸問題を論考してあますところがない。最後に経理報告の近代化を述べている。

本書は著者もいう通り「利益経営への道」を最近出版の専門書をくまなく参照しつつ著者独自の見解にまでまとめ上げた新著である。緑丘同学の諸氏の御披見を切に希望します。



三 緑 丘 人 物 譚 三

(5)

日立造船株式会社
取締役 総務部長

会津幸雄氏 (昭8)



に卒業三十周年大会を熱海でやりま
したが、当時の先生方が皆出席して
頂き盛会でした。

唯今の総務部長の御仕事は

この総務部の所管は事務管理、文
書、株式、庶務ということですが、
事務管理は非常に大切なことだと思
います。私着任の三十三年に事務管
理の生産性本部の視察団として、六
週間アメリカのN・C・R始め十数
社を廻り、ヨーロッパへ寄り造船所
を視察して参りました。おもしろいこ
とですが、うちの会社のおくれている

①社内規定の整備、改廃、統合

②報告書類の簡素化

③事務原価の把握、低減

ということを呼かけて参りました。
生産面のコスト低減はいわれており
ましたが、まだ事務面の研究が足り
ないのではないかと思ひまして、制
度として事務論文、事務提案をさせ
ております。提案は年間約二千件位
ありますよ。(その後日本経済新聞
に記事としてアイデア・センターを
設立した。このアイデア・センター
に従業員だれでもが専門外のこと
でも「思いつき」でも気楽に提案でき
るわが国では珍しい組織。とありま
した)

先日生産性本部の「トップマネー
ジメント総合コース」のセミナー

に参加されたそうです

六日間づつ総論、各論と二回に亘
つて軽井沢と河口湖畔でやりまし
た。長期計画、情報(資料)の管理
整理、分析、マーケティング、新製
品の開発、人事管理、財務計画等
についてですが、大へん参考になり
ました。帰ってから重役会で報告する
システムですが、理論の裏付けを尺
度に現在の会社のやり方をみますと
尺度にあわない点が多々ありますの
で報告も楽じゃありませんね、まる
で学生時代を思い出しますよ。

御立派な体格ですが

学生時代柔道をやりました。今は
ゴルフを楽しんでおりますが、三年
の時、肋膜炎をやり、半年ばかり養生
したことがあるんですよ、その後、
辛い健康に恵まれておりますが、い
までも、精神的苦難に耐える力。苦
しい中で正しい判断をする力を得た
と思っております。

(訪問者) 服部奎吾 (昭二三)

東海銀行大阪支店 得意先課次長



夏の
集い 昭和十三年会(東京)

八月二十二日(木)納涼をかねて
の同期会を数奇屋橋のニユートーキ

ョーで開催したが、在京の十五人が
参集し盛会を極めた。昭和十三年会



は卒業二十五周年
記念全国大会をさ
る五月伊豆網代温
泉で盛大に開いた
が、その大会のス
ナップ写真をかこ
んでまたまた、そ
の日の思い出話に
花が咲いたがいつ
しか夢は飛んで、
五年後の三十周年
の全国大会におよ
び、折角の機会ゆ
え、永年苦勞させ
てきた女房を連れ
て母校の地を訪れ
、せめてもの罪亡
しをしたものだ
という涙ぐましい
愛妻論が圧倒的に
多く幹事をして痛
く感激せしめた。
もつとも聞くとこ
ろによると、五月
の大会に家族連れ
で参加した連中の
その後の報告がこ

のムードを盛り上げていらっしゃるらしい。

すなわち、参加された奥さん連の
曰く「この齢になつて(?)お父さ
んの真価を再認識したわ」と。以来
旧に倍した献身的サービスを受ける
に至つたという噂に一同大いに感銘
をうけたことが原因のようである。

そういえば夫婦連れに対しては独身
参加組が大いに気を使い、若かりし
ころの旧悪などには一切触れず、専
ら引立役にまわつたのもおやじの価
値引上げに相当効果があつたよう
である。何れにせよ、五年後の大会に
はと、一同大いに張切り今後は毎月
二千円の月掛貯金をやつてこれにそ
なえようという健気な案も出て日銀
貯蓄推進部長の室谷君を喜ばせた。
かくて一同、糟糠の妻と連れ立って
緑丘の校庭を逍遙する五年後の姿を
胸に画いて今日何所にも脱線せず
真直ぐ家に帰ろうということでの
日の会は幕となった。

なお昭和十三年会は卒業年に因み
例会は原則として、十三日に開くこ
とになり、次回は十二月十三日とす
ることになった。(金垣記)

当日の出席者(写真前列左より)室
谷邦雄、大滝正八、鹿島田清吾、秋
田谷清、富永義、齊藤大蔵、田中康
夫、小川愛策、藤城敏雄、大野陽之
助、青塚寛二、高野憲一郎、立木良
蔵、窪田多々男、金垣英雄。

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

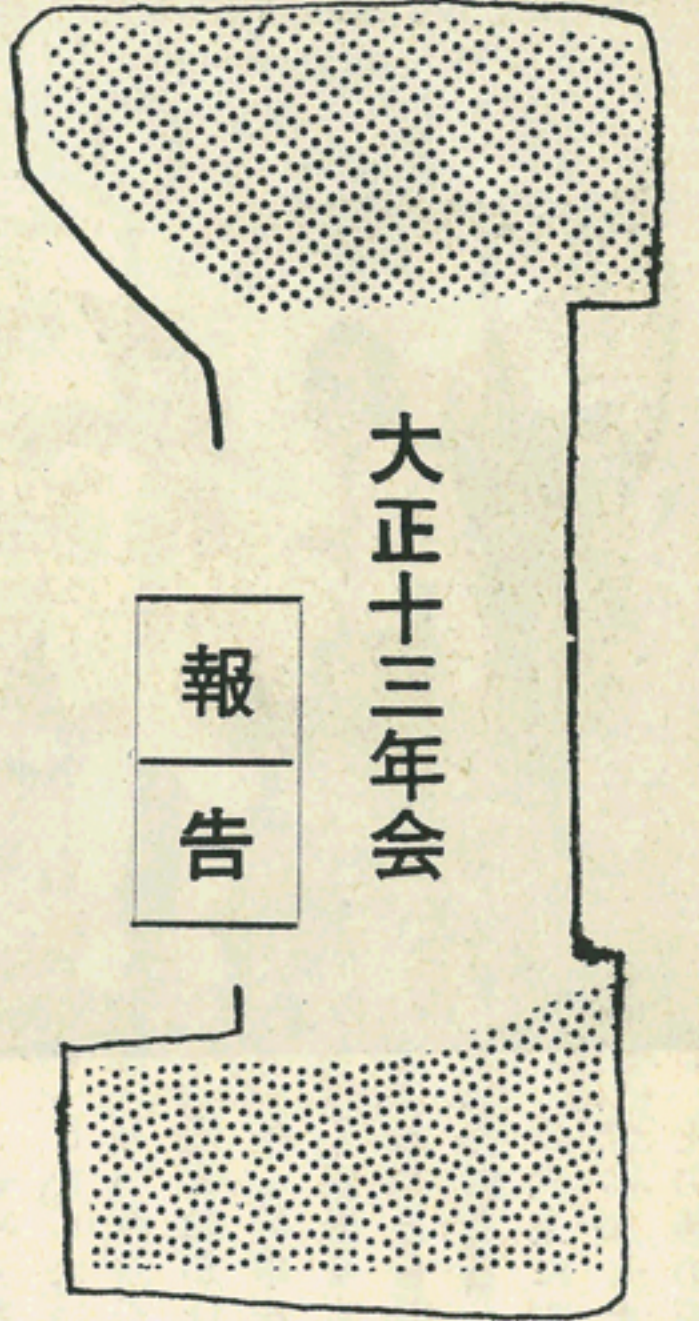
日邦工業株式会社

取締役社長 井 薬 政 市
相談役監査役 宮 地 邦 介 (大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪(30) 8 4 6 1 (代) ~ 5 番
工場 大阪市大正区南御加島町二丁目二七二番地
出張所 横浜市鶴見区東寺町七二五番地 電話 鶴見(5) 2 3 0 3 番

和田製糖株式会社

東京都中央区日本橋蛸殻町1-2
TEL (671) 0 0 3 6
常務取締役 松ヶ野 寿 夫 (昭13)



報告

大正十三年会

①昭和三十三年一月十日、於赤坂、富美川

出席者 広島進、水上貞、二馬吉郎、高浜年尾、久保田敏三、谷弥太郎、広野允幸、大谷辰雄、麻生正夫、中尾晃、田中修吾、古関周蔵

欠席の通知の中に珍らしく山田稔君が郷里に帰って元気であるとの通知があった。

昭和二十九年末以来級会幹事として尽力された久保田敏三、大谷辰雄両君からバトンが田中修吾、古関周蔵両君に渡された。

②昭和三十三年六月二十二日

於 東京ステーションホテル
大野前学長の御上京の機に久しぶりに急集った。

出席者 大野前学長、谷弥太郎、新沼達郎、大谷辰雄、井上保、立花英二、島崎伊兵衛、広野允幸、中尾晃、渡辺清、田中修吾、古関周蔵

大野前学長を囲んで時の移るのを忘れて、話し合ったが、珍しかった

のは、折から上京中の函館の井上保君が飛入り参加され興に乗って美声歌謡曲数曲を聞かせて呉れたことだった。

同日参加者の寄せ書を送った中で山形県にいる鹿野平治郎君から

送り来し 友の寄せ書 若き日のひととき忍び 樂しかりけり

と感慨を寄せてきた。

なおこの会はステーションホテル常務取締役の石川一先輩の格別の御幹事によって特に便宜を与えられたことを附記して誌上から級会一同の感謝を述べさせて頂く。

③昭和三十三年七月四日

於 銚子市犬吠岬、眺鷄館

出席者 中尾晃、谷弥太郎、高浜年尾、雨谷茂民、林文平、久保田敏三、広島進、広野允幸、渡辺清、徳橋周吾、用中修吾、古関周蔵、ウィークデーでなかったのと少し速出になるので出席率如何を案じたがクラスメートの懐しさがそうさせるのか、銚子に永く住んでいる級友雨

谷茂民君が皆を引きつけたのか意外に出席率が良くて驚いた。
三味線持つ芸者を何時までも膝元にひきつけておく誰彼(皆さん察しがつくでしょう)にお前は金費の割増を出せと野次が飛べば豊富なお尻を見ている奴らもタント出せと応酬がある等坐興は沸きに沸いて約束の時間がきても帰らぬ芸者は忘れられた。幹事に都合を聞きにくる始末だった。

十二時近く閉会となつて眺鷄館泊りとなつたわけだが、高浜年尾宗匠の部屋は芸者、女中(美しいのは皆帰って年寄りの不美人ばかりだけ)が皆集つて色紙、短冊を書いてもらうべく押す押すの有様、見兼ねて俺達が代りに書いてやると篤志家も大分いたけど袖屏風に隠していいです、いいですと断わられ、いいよ速慮さんなど追いかけても「本当にいいんです、速慮しません」と真顔で泣きそうなるほど素朴な土地だった。

雨谷夫人、若くて美人、夜おそくまでサービスされて感激の至り。夫妻揃つて酒間の幹事に一同大喜びだったが、御兩人帰宅のあと

「雨谷君晩婚だとは聞いたが、若くて美しいのをもらいやがってウメエことしたな」なんて低い声で言つた奴は真実実感が籠つていた。最後に前、現学長宛と神経痛で出て歩けぬ小野大塊(小野永司事)宛激励の寄せ書を書いた。白髪と禿と黒髪と三割づついたから、怒みっこなしだったが、学長宛の寄せ書には禿は元級長だったと潜称したことから端を発し白髪は秀才だったと主張するし

黒髪のは在学時代ろくろく勉強もしないで卒業試験を済ませた(頭の良いやうに聞える)と言うことで納まりがついた。
なお翌朝六時起床、ゴルフ有志高浜、広島、広野、谷、久保田、田中古関の七名で我孫子でワンハーフのコンペティションをやつて夕刻帰京した。
別れる時は何時でもまたやろう、またやろうだ。
帰京した翌日、級友福島正民君(室蘭)の計報あり、弔電花環で弔意を表した。折も折であった。

④卒業四十周年予告篇

来年は丁度四十年になる。二十五年、三十年(三十五年は母校の五十周年と併催)とやってきたんだから四十年も是非盛大にやれとの声が高い。目下のところ

開催地——東京周辺

時期——昭和三十三年五月二十日前後

ということ、在京の連中の意見である。

北海道方面は寿原九郎君に、関西以西は香川清夫君に取纏めの役を頼もうということになっている。

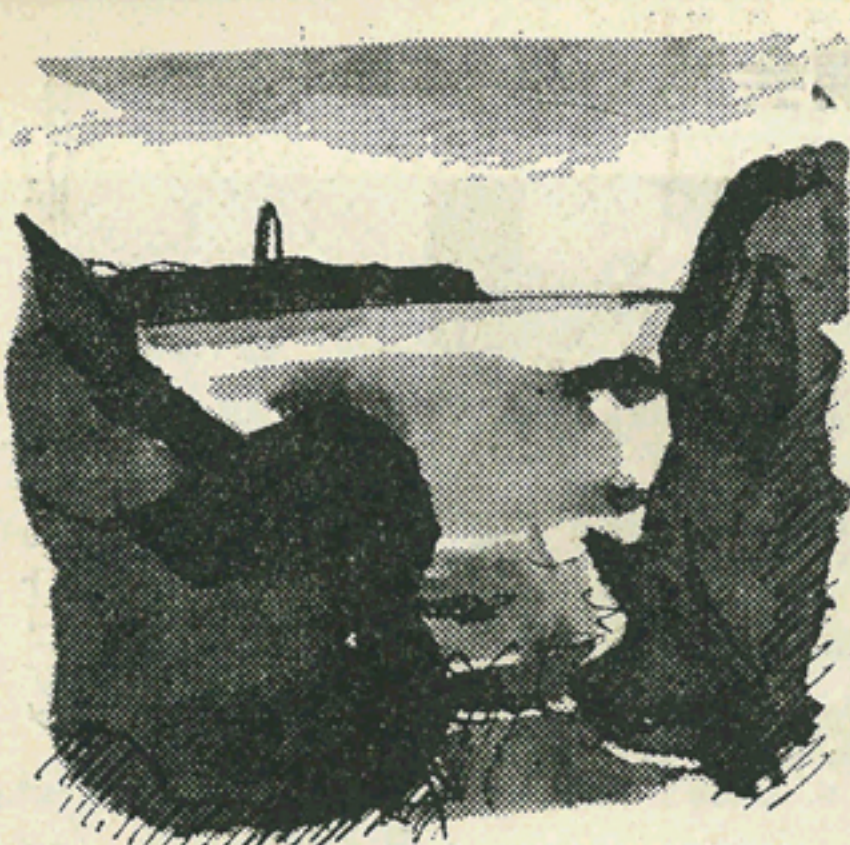
先輩各位ですでに四十周年記念クラス会を催された方で、何かよい趣向でこれは良かったということがありました是非アドバイスして下さい御願申上げます。

幹事
東京都渋谷区松濤町 田中修吾
東京都目黒区中目黒一の一 古関周蔵

太平洋の怒濤を聞きながら

犬吠岬眺鷄館で

高 浜 年 尾



銚子の雨谷茂民を有志で訪ねてクラス会をし、一泊して翌日は帰りを我孫子でゴルフするの面白いじやないかと一決した。皆の都合をまとめ七月の四日、五日ということにな

った。集るもの雨谷、林(文)徳橋渡辺(清)中尾、それにゴルフ組として古関、田中、広野、久保田、谷広島、高浜の面々。
雨谷は銚子信用金庫の専務として大きな存在となつていただけに、犬吠岬の眺鷄館にはとくによい接待をうけることができた。損保関係の古関、田中は銚子とは深い関係にもある。私(高浜)は父の句碑がこの岬にあり、この土地の俳人と昼間一句会をしてから合流というわけ。

東京の宴席での二、三時間のクラス会とちがって、一泊の落着き気分でのクラス会は、一段と賑わい、感激も一入である。相変らずの芸達者も、名取芸者の幹事よろしく、歓を尽すこと十分。時間はたちまち深夜に及ぶという有様であった。雨もよの太平洋の怒濤の音に還暦老ども軒高らかに十二時前には夢路を辿った。美しい雨谷夫人の心からなる御接待には、一同よい思い出の一夜となった。

翌日朝六時に食事をして七時十二分の列車で我孫子へ向つたゴルフ組は、さして照りもせぬ絶好のゴルフ日和に恵れて、楽しい一日を過ぎ得たことは日頃の精進よろしき結果と自画自賛したことであつた。
広野の一等、谷の二等、私の三等。のブービーとだけ報告しスコアは記さないこととする。
時折こうした一泊旅行のクラス会をしようではないかと、みな希望したほど、銚子一泊は楽しいよい会であつた。



千代田火災海上保険株式會社

取締役会長 古 関 周 蔵
取締役社長 手 嶋 恒 二 郎

東京都中央区京橋 1-3 新八重洲ビル TEL (535) 4 6 7 1

昭和11年(さむらい会)30周年記念準備会開く

兼子清一郎君(アメリカ) 高木 信君(オーストラリア)

出張歓送会



昭和十一年卒東京組(さむらい会)は去る九月二十八日(土)午後四時から躍金楼(テッキンロウ)に集り、卒業以来あと三年を控えて満三十年を迎えるので、非常に早い手廻しであるが、第一回準備会を開催した。

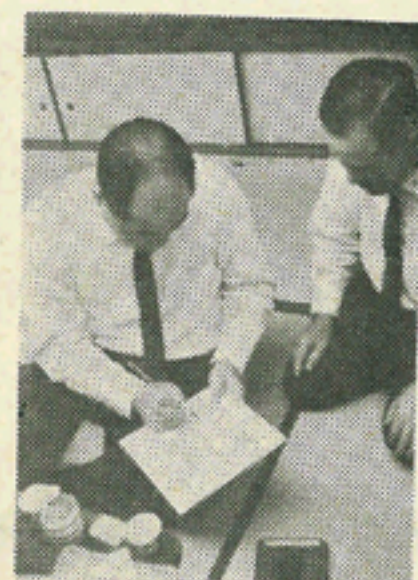
こういう早い手廻しをしたのも「緑丘」に昭八会が三十周年の盛大さを発表し、昭和十三年もまた二十五周年を華々しく家族連れで催したその刺戟のあったことは事実である。

兼子君は大阪から会合の時是非出席したいから一度集ってはどうかとの連絡もあり、併せて兼子清一郎君がアメリカへ一カ月の視察に発つという、はるばる山形からの上京でもあり、三拍子合わせて開会となった次第である。

最近大阪から転任になった三崎君(三和銀行銀座支店長)小池君(日本ビニールエス研究工業会計部長)など珍品が、顔をそろえるにあつては、少しでも早くと出席を急いで会場へ向かった。幹事の若公君は会場で配をふるい、受入態勢よろしく待たせてくれた。兼子君がくる。小池君が現われる。高橋敬正君も早い。今東京へ着いたが、会場が判らぬと電話が兼子君から掛ってきた。若公君が出て迎へに行く。高木重信

君が入場。兼子君も大きな包を持って入場。林崎君と、紫竹君が続いて入場した。兼子君は僕の顔を見て判らないアという。名前を云うのをわざと遅らした。高橋君は小島君だよ。やあしばらく。同君、早速母校五十周年記念号の「緑丘」を出して二十五年の記念祭を披露してくれ。兼子君は高木君には二十数年ぶりの邂ごうという。高木君も兼子君の所へ行つて「緑丘」の編集功勞者には、先づ第一にこのポールペンを。中尾君が入場、酒井君、明石君が顔を出す。兼子君はアメリカへ行くそうだなと誰かがいいだすと、俺も近くオーストラリアへ行くんぞ。今、みんなにこの特許のポールペンを進呈すると、参加者一同に宣伝を兼ねて贈呈してくれたのが高木君。この辺で若公幹事から拍手の中に開会の辞があり、二人の旅立ちと久々の会合を祝う乾杯。太田君、三崎君が現われた。

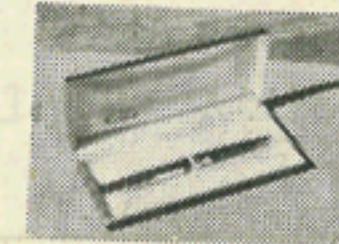
次いで兼子君より三十周年記念の各年次卒業生の構想、経験談や二十五周年記念の模様を簡単に説明してくれる。二十五周年記念の時に越崎(小樽)君が次回は東京でしかも熱海で、旅館も心づもりがあるとのこととを話されたとかで一寸明るい見透しが脳裡をかすめた。何れ具休案が練られて印刷配布されるが幹事は、中尾、高橋、高橋正敬、若公、大阪兼子、小樽越崎ということであった。(名簿変更は若公君に連絡のこと)卒業二十七年ともなれば温なしい飲み振りである。思ひ思いに酒やビールをくみ交わし、つもる話は席をかえて語り合う。



左から中尾君高橋君



(上) 兼子君と三崎君



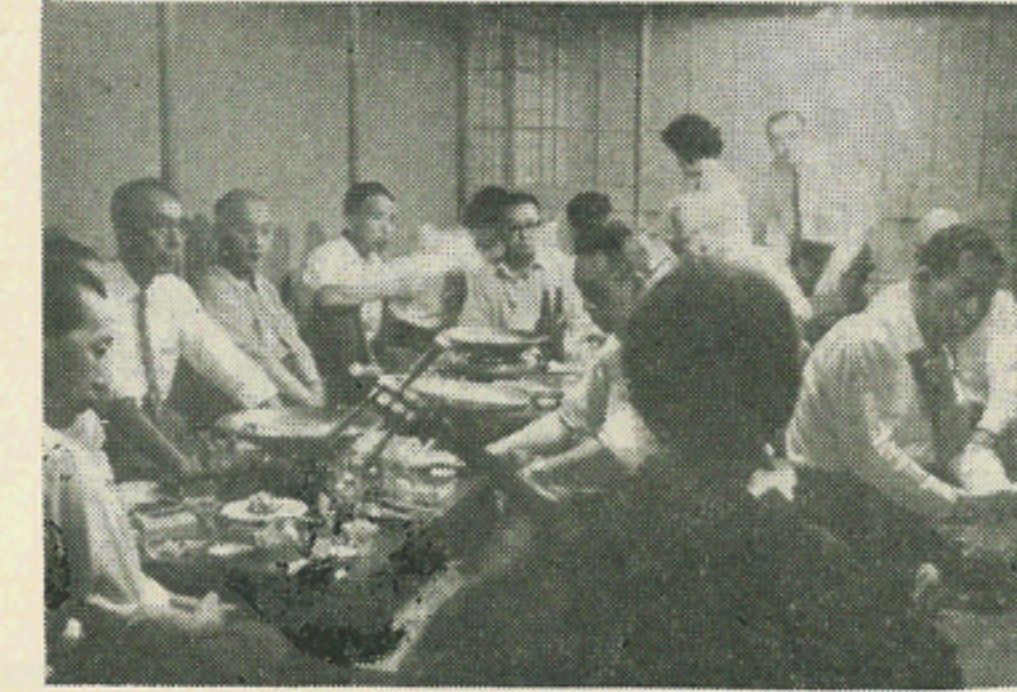
(下) 高木君が贈った記念万年筆

誰れいとうとなく「緑丘」功勞賞を兼子君に出せよとわめいた。一同拍手が湧く、頃合を見て中尾君発言「一番いい万年筆を高木君から贈ってくれよ」また拍手。自分は病後でもあり名残惜しくこの賑かな席を後髪を引かれるような気持で一足先に失礼した。(小島記)

大阪支部(十日会)うどん・スキ焼パーティー

満員の盛況

高浜宗匠(大)夫妻の「靱猿」



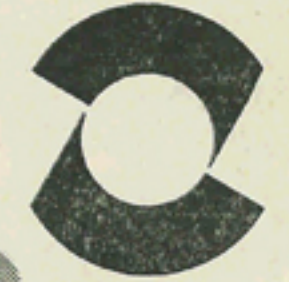
九月十日会は趣好を変えてうどんスキヤキパーティーを試みた。本日のゲストは高浜年尾氏(大二三)と決つたのは八月十日会の席上であつた。それも宮地邦介氏(大一一)の協力による。場所は大阪、道修町五丁目美々卯で、うどんでは有名である。場所を設定した兼子副支部長は高浜先輩のノドの良さを知りつくし、音楽効果

測定のため二度も美々卯へ試食に行つて当日の部屋を選択したというほどの熱心さであつた。大阪十日会は昼食会と定めてゐるが、今回特に高浜宗匠のため夜を選定した本人だけに周囲の環境等に気をつかつたようであつた。定刻六時になると美々卯の一室はたちまち満員となつた。例によつて開会のことばが兼子副支部長からあり、その中に最近のニュースをチャリと御披露におよぶ。曰く、広島支部結成とその総会について。

ボクの銀行



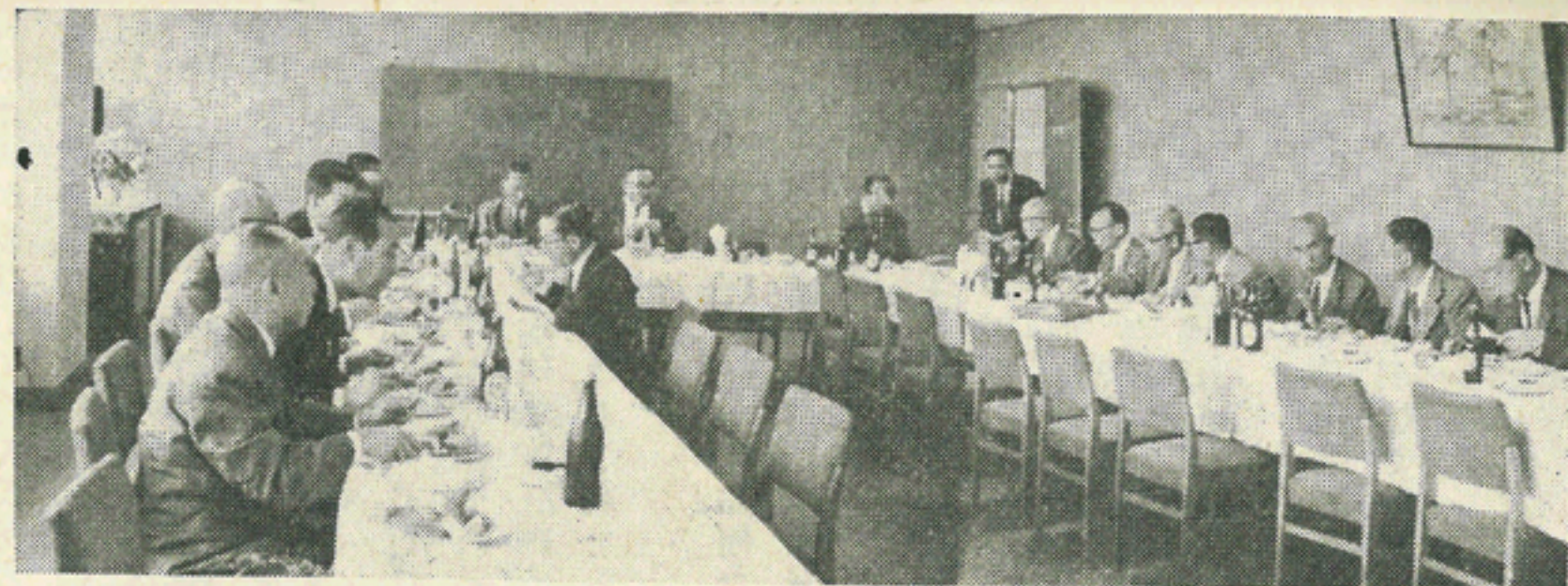
びっきいちゃんの貯金箱



神戸銀行

- 一家の夢の実現に
- ホームプラン預金
- スマートな暮らしの小切手
- ホームチェック
- お子さまに絵本の通帳
- すまいる預金





会 場 風 景

本日のスピーカーは会津幸雄氏で同氏は日立造船取締役総務部長の要職にあつて、八月軽井沢、九月河口湖畔で開催されたトップマネージメント講座総合コースの紹介に及び特に興味のある問題についてかいつまんで話をされた。

(一) 日本経済の最近の生長動向



会津幸雄氏 (右端)

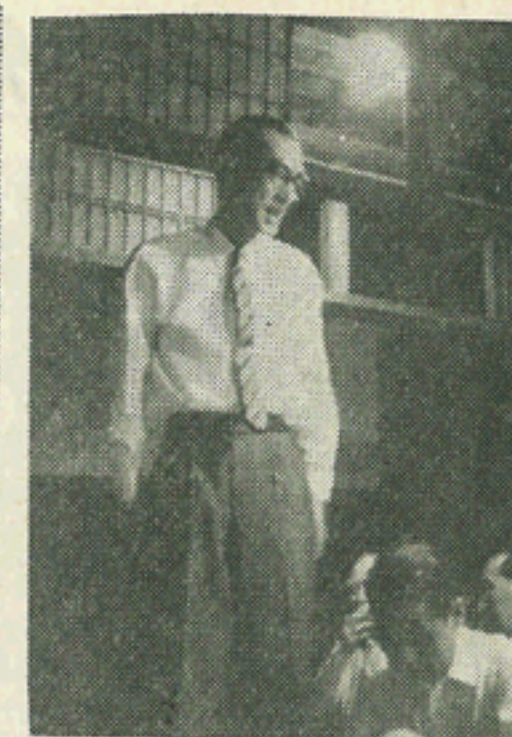
(向坂先生、木内先生)
 (二) トップマネージメントの新しい見方、考え方。 (高宮晋先生)
 (三) トップマネージメントの職務として如何なる問題を取扱うべきか (川口湖コース)

①長期計画について
 ②マーケティングと新製品開発
 ③財務計画について
 ④労使関係について

時間不足のため(一)、(二)の中興味あるものについてお話をされた。

わが国の高度生長は戦災復興の昭和三十年までと三十年以後の生産発展に分けられるが、後者の発展を促した原動力はイノベーションすなわち技術革新と設備投資である。昭和三十七年度を見ても全生産高の六三%は重化学工業である。と前置して話を続けられた。

所得倍増計画の再検討の問題、そして日本経済の動向としては経済生



名物うどんのスキ焼で乾杯にはじまる。
 一女性が現われた。大一一の連中は高浜夫人が見えたという。そのあとに高浜年尾氏も「アー暑い、暑い」と頭をフリフリ御出席。
 いよいよ長唄「靉猿」の御披露である。先づノドを潤し、腹ごしらえ。
 用意の赤紙も縁側にしつらえ、今や遅しと一同見守る中に、やおら立上り、「間違ったら女房のせいだ

よ」と仲のよい所を一言。
 三味の音またよし。一堂静寂。
 (但し隣の席の趣味なき若ものたち雑談多く幹事閉口)
 猿が鞭をとって芸をする当り、そのいぢらしさに猿引きは泣き出す。大名もあわれに思つて助けてやる。喜んでお礼のために芸をさせると、その猿舞のおもしろさに大名がまねをしてうれしがる。そのまねをして浮かれるくんだり。一同カタツを飲んで聞き入った。
 高浜年尾氏も素人芸を飛び越え年期の入った声のさえを見せたが、これにもまさる夫人の三味線には、唯うっとり聞き惚れたという表現が当たっていたのでなかるうか。
 誠に楽しい一夕であつた。
 副支部長滝沢中氏の閉会の辞をもつて本日の幕を閉じた。
 (若山記)

10月10日会

(大阪支部)

日本生産性本部の

トップマネージメント

講座に出席して

日立造船 取締役総務部長 (株)

会津幸雄氏

(昭八)

- ・ アルミニウム箔
- ・ アルラップ (アルミ箔と紙セロファン等の貼合せ)
- ・ アルワックス (アルミと箱紙セロファン等のワックス貼)
- ・ アルミ箔印刷ならび型付
- ・ ニップク・ホイル (家庭用アルミ箔)
- ・ アルミ箔容器



日本製箔株式会社

取締役社長 杉山昌作 (大11年)

本社 大阪府吹田市東御旅町10番70号 TEL (06) 2151~5
 東京営業所 東京都中央区銀座西7丁目2の1 (日軽ビル) TEL (572) 2341~5
 工場 吹田・京都・藤井寺・三 国

ゆたかな香り
たのしさをのみましょう

ハチブドー酒

■丸びん・赤白各 220円

合同酒精株式会社

江上トミさんの 舌が…… 舌をまいた。

広い世界の料理をまな板の上のせてみたいと常日頃思っている私の前に「世界の味」とマークした缶詰が現われました。何も予備知識がなかったので、またか、と思ったのですが、一つ一つ味わっている内に、この缶詰を作った人は……と疑問が湧き上がりました。かつて私が世界の旅で食べたその名物料理の味を上手にとらえて正直にこの小さい缶の中に納めてあるからです。後で聞けばこの缶詰を作るためには各国に長期滞在して研究をされた結晶のたまものだとわかって、「全くそうだ」とうなづきました。

江上料理学院長 江上トミ

本格的な世界
料理の缶詰

世界の味

- ロシア風 ボルシチ
- イタリア風 ミートソース
- ハンガリー風 ビーフシチュー
- 印度風 ビーフカレー
- 英国風 トマトスープ
- アメリカ風 コーンスープ
- オランダ風 いちごジャム
- ポルトガル風 ママレード

¥ 700 (5カン入)
¥ 1000 (8カン入)
¥ 1500 (12カン入) があり
ます。デパート有名食料品
店でお買求めの上一度味を
おためし下さい。



エム・シー・シー食品株式会社

神戸市長田区荻藻通5丁目15 TEL代(67)1245

取締役社長 水垣敏正(昭5)

長の基調が変化して行くであろう。それは次の三つの問題①公共投資②個人消費③輸出という点にしばらく行くと若年労働者の不足と賃銀の高騰しかも中小企業にまで大企業並の賃銀の上昇が要求せられる。従って量から質への問題に入り近代構造再編成という変革が予想せられる。

木内信胤氏の池田倍増計画の算定基準に対する痛烈なる批判をも併せて紹介する。

高宮晋氏の経営技能は如何なる企業にも共通である点、仕事はドライに人間関係はウェットに、社会で要求される良いものを安く提供せよなど三点にしばって説明する。

今後の日本経済は先進国の低コストの間に入って益々苦悩の道を歩まねばならぬと諸講師の紹介をされた。

居ながらにして諸講師の講義を短時間にダイジェストしていただいたことを感謝し、深い感銘を受けて本日は解散した。

- (出席者)
- 椎名幾三郎先生、宮地(大一一) 小山(大一二) 香川(大一一三) 畑(大一一四) 天野(大一一五) 黒羽、渡辺(昭二) 樋山(昭三) 玉井、宇山(昭四) 石井、小島(昭六) 会津(昭八) 梶目(昭一一) 田中(昭一二) 河合、若山、和田(昭一三) 高木(昭一八) 和田、服部 桜井(昭二三)

転居

- 藤原 良静(昭七) 武蔵野市中町二丁目八番十五号
- 信田 英吉(昭一三) 札幌市南一条西十二丁目
- 佐々木周一(大四) 東京都中野区松ヶ丘二丁目十一番十一号
- 原 祐三郎(昭一七) 東京都府中市四谷二八四七―七九
- 栗山 秀雄(昭一一) 宝塚市川面字池田裏五
- 佐藤 清定(昭四) 東京都世田谷区世田谷五、二六一
- 湊 富美男(昭八) 東京都練馬区豊玉中四丁目七
- 山口恒四郎(昭一一) 武蔵市吉祥寺東町三丁目一三一―四
- 五十嵐良一(昭一一) 札幌市中ノ島三二四 石川方
- 赤津 俊樹(昭一九) 栃木県小山市神明町二の三二〇
- 高瀬 純一(昭一六) 東京都世田谷区北沢四丁目四一三
- 事務所移転 佐々木周一(大四) 東京都中央区日本橋室町二ノ一番 地 三井西三号館三階三〇五号



日立商品特約店

日本電気機器株式会社

取締役社長 天野雅司(大正15年)

本社 サクラバシ日立シヨーストール

大阪市北区曾根崎新地2丁目50番地

電話大阪(361)8871番(代表)

大阪(361)4602番(夜間専用)